

国道 3 1 号坂電線共同溝 P F I 事業

見積参考資料

令和 7 年 9 月

(令和 7 年 11 月 20 日訂正)

国土交通省中国地方整備局

見積参考資料一覧

・見積参考資料
・見積参考図面（積算用参考図）

この「見積参考資料」は、本事業の現場条件等を考慮し、標準的な事業内容等を参考に示した資料であり、契約図書ではない。

従って、「見積参考資料」は事業契約上の拘束力を生じるものではなく、事業者は施工方法、地質条件等を十分に考慮して、設計、工事、維持管理、調整マネジメント等の事業目的を完成・維持するための一切の手段について事業者の責任において定めるものとする。

見 積 參 考 資 料

国道31号坂電線共同溝PFI事業 見積参考資料【業務委託料】

当資料は、見積の参考資料であり、設計図書とはならない。

項目	適用
【共通】	
適用単価	1. 労務単価については令和7年度単価を採用している。
見積歩掛	<p>1. 本業務における下記種別の歩掛については別紙のとおり見込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調整マネジメント（設計段階） ・調整マネジメント（工事段階） ・電線共同溝点検 ・電線共同溝管理台帳作成 ・台帳管理 ・調整マネジメント（維持管理段階）
【調査業務（地質調査）】	
作業編成	1. 作業編成は、各工種毎で1班を考えている。
土質ボーリング	1. 土質ボーリングはオールコアボーリングを想定している。
運搬費	<p>1. 資機材運搬及び人員輸送に係る積算上の基地は広島市役所、現地は広島県安芸郡坂町平成ヶ浜地内を見込んでいる。</p> <p>2. 資機材にかかる積算基地から現地までの運搬費として2tの2.9t吊りクレーン付きトラック6台・日（片道所要時間1時間）を見込んでいる。</p> <p>3. 現場内小運搬は見込んでいない。</p>
準備費	<p>1. 準備及び後片付けとして、ボーリング箇所の伐開除根、測量および各種許可・申請手続きを見込んでいる。</p> <p>2. 調査孔の閉塞を3箇所見込んでいる。</p>
打合せ	<p>1. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <p>① 1回当たりに要する時間（移動時間を含む）：0.5日・人</p> <p>② 編成人数 業務着手時及び成果品納入時：主任技師、技師(A)の2名 中間打ち合わせ：主任技師、技師(B)の2名</p> <p>③ 打合せ回数：業務着手時1回、中間打ち合わせ1回、成果品納入時1回</p>
旅費交通費	1. 本業務は、宿泊・滞在を伴わない旅費交通費として計上している。 打合せ、関係機関協議、現地作業（現地調査等含む）にかかる旅費交通費は地質調査業務全体の直接調査費の2.14%として計上している。なお、契約変更によって直接調査費の増減があった場合の旅費交通費においては変更後の直接調査費に対し率を乗じた額により計上する。ただし、旅費交通費の上限は1,026千円とし、変更によって宿泊が生じた場合は本項の率2.14%は適用しない。

	【調査業務（試掘調査）】																
試掘調査	<p>1. 試掘調査における条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 数量（1箇所あたり） <table> <tr><td>As舗装版切断／As舗装版15cm以下-----</td><td>4. 0 m</td></tr> <tr><td>As舗装版取壊し／As舗装版 t=4cm-----</td><td>1. 0 m 2</td></tr> <tr><td>As殻運搬処理／歩道部 2. 20t/m3-----</td><td>0. 0 4 m 3</td></tr> <tr><td>床掘／砂質土-----</td><td>1. 0 m 3</td></tr> <tr><td>埋戻し／砂質土-----</td><td>0. 9 m 3</td></tr> <tr><td>仮舗装／表層:再生粗粒度As(20) t=4cm---</td><td>1. 0 m 2</td></tr> <tr><td>仮舗装／下層路盤:RC-30 t=10cm-----</td><td>1. 0 m 2</td></tr> </table> ② 交通管理工（23箇所あたり） <table> <tr><td>交通誘導員A 12人・日 (昼間:交代要員無し)</td></tr> <tr><td>交通誘導員B 12人・日 (昼間:交代要員無し)</td></tr> </table> ③ 施工時間帯：昼間（9:00～16:00） 	As舗装版切断／As舗装版15cm以下-----	4. 0 m	As舗装版取壊し／As舗装版 t=4cm-----	1. 0 m 2	As殻運搬処理／歩道部 2. 20t/m3-----	0. 0 4 m 3	床掘／砂質土-----	1. 0 m 3	埋戻し／砂質土-----	0. 9 m 3	仮舗装／表層:再生粗粒度As(20) t=4cm---	1. 0 m 2	仮舗装／下層路盤:RC-30 t=10cm-----	1. 0 m 2	交通誘導員A 12人・日 (昼間:交代要員無し)	交通誘導員B 12人・日 (昼間:交代要員無し)
As舗装版切断／As舗装版15cm以下-----	4. 0 m																
As舗装版取壊し／As舗装版 t=4cm-----	1. 0 m 2																
As殻運搬処理／歩道部 2. 20t/m3-----	0. 0 4 m 3																
床掘／砂質土-----	1. 0 m 3																
埋戻し／砂質土-----	0. 9 m 3																
仮舗装／表層:再生粗粒度As(20) t=4cm---	1. 0 m 2																
仮舗装／下層路盤:RC-30 t=10cm-----	1. 0 m 2																
交通誘導員A 12人・日 (昼間:交代要員無し)																	
交通誘導員B 12人・日 (昼間:交代要員無し)																	
	【詳細設計業務】																
電線共同溝 詳細設計	<p>1. 電線共同溝詳細設計（全体設計）における条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 設計延長----- 800 m ② 市街地以外等の延長----- 0 m ③ 予備設計成果----- ある ④ 各部設計----- 行う ⑤ 応力計算ケース数(管路部)----- 3ケース ⑥ 応力計算ケース数(特殊部)----- 3ケース ⑦ 応力計算ケース数(地上機器部)----- 3ケース ⑧ 応力計算ケース数(仮設構造物)----- 3ケース 																
打合せ	<p>1. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1回当たりに要する時間（移動時間を含む）：0. 5日・人 ② 編成人数：主任技師、技師(A)、技師(B)の3名 ③ 打合せ回数：業務着手時1回、中間打ち合わせ5回、成果品納入時1回 																
関係機関打 合せ協議	<p>1. 関係機関との打合せ協議を、下記のとおり見込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1回当たりに要する時間（移動時間を含む）：0. 5日・人 ② 編成人数：主任技師、技師(A)の2名 ③ 協議回数：15機関・回 																
旅費交通費	<p>1. 本業務は、宿泊・滞在を伴わない旅費交通費として計上している。打合せ、関係機関協議、現地作業（現地踏査等含む）にかかる旅費交通費は土木設計業務全体の直接人件費の0. 63%として計上している。なお、契約変更によって直接人件費の増減があった場合の旅費交通費においては変更後の直接人件費に対し率を乗じた額により計上する。ただし、旅費交通費の上限は244千円とし、変更によって宿泊が生じた場合は本項の率0. 63%は適用しない。</p>																
電子成果品 作成費	<p>1. 電子成果品作成費は、「概略設計、予備設計又は詳細設計」を見込んでいる。</p>																

【調整マネジメント業務（設計段階）】	
調整マネジメント（設計段階） 打合せ	<p>1. 調整マネジメント（設計段階）における条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <p>① 1月当たり日数：19. 5日／月</p> <p>1. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <p>① 1回当たりに要する時間（移動時間を含む）：0. 5日・人 ② 編成人数：技師(A)の1名 ③ 打合せ回数：24回（1回／月）</p>
【調整マネジメント業務（工事段階）】	
調整マネジメント（工事段階） 打合せ	<p>1. 調整マネジメント（工事段階）における条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <p>① 1月当たり日数：19. 5日／月</p> <p>1. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <p>① 1回当たりに要する時間（移動時間を含む）：0. 5日・人 ② 編成人数：技師(A)の1名 ③ 打合せ回数：72回（1回／月）</p>
【工事監理業務】	
管理技術者の職階 担当技術者の職階及び数量 打合せ	<p>1. 管理技術者の職階は、技師(A)を見込んでいる。</p> <p>1. 担当技術者の職階は、技師(C)を見込んでいる。</p> <p>2. 担当技術者の延べ数量は、1, 404人工、担当技術者の超過業務は1人当たり1月30時間を見込んでいる。</p> <p>1. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <p>① 1回当たりに要する時間（移動時間を含む）：0. 6日・人 ② 編成人数：技師(A)の1名 ③ 打合せ回数：144回（2回／月）</p>
旅費交通費、業務用自動車損料、燃料費及び運転手賃金等	<p>1. 本業務において打合せ、現地確認、段階確認、工場検査等への臨場にかかる旅費交通費は率を用いた積算とする。 なお、契約変更によって直接人件費の増減があった場合は変更後の直接人件費に対し率を乗じた額により計上し、業務内容の変更によって率を用いない積算に変更する場合がある。</p> <p>2. 本業務の当初契約では、旅費交通費以外の直接経費（積み上げ計上分）に該当する項目はない。</p> <p>3. 変更契約において計上する業務用事務室損料等は以下を標準とする。なお、地域特性等により標準によりがたい場合は、監督職員と協議すること。 • 業務用事務室賃料（建物面積25m²／箇所）：1箇所 • 駐車場賃貸料（1台分／箇所）：1箇所 また、計上する賃料については、市場価格調査や実勢価格等を参考に決定するものとし、監督職員と協議すること。</p>

	【家屋調査業務】
打合せ	<p>1. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1回当たりに要する時間（移動時間を含む）：0.5日・人 ② 編成人数：主任技師、技師(A)、技師(B)の3名 ③ 打合せ回数：業務着手時1回、中間打合せ2回、成果物納入時1回
適用歩掛	<p>1. 家屋調査に係る歩掛については「用地調査等業務費積算基準（R7.3）」を適用している。</p>
【維持管理業務】	
点検箇所数	<p>1. 点検の箇所数は下記の条件を想定している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特殊部 23箇所 ・点検期間（頻度） 12年間（1回／5年） ・点検回数 2回 ・延べ点検箇所数 46箇所
調整マネジメント（維持管理段階）	<p>1. 調整マネジメント（維持管理段階）における条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1月当たり日数：19.5日／月
打合せ	<p>1. 打合せにおける条件は、下記のとおり見込んでいる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 1回当たりに要する時間（移動時間を含む）：0.5日・人 ② 編成人数：技師(A)の1名 ③ 打合せ回数：144回（1回／月）
旅費交通費	<p>1. 本業務において打合せ、関係機関協議、現地作業（現地踏査含む）にかかる旅費交通費は率を用いた積算（宿泊、滞在を伴わない業務の場合とする。なお、契約変更によって直接人件費の増減があった場合は変更後の直接人件費に対し率を乗じた額により計上し、業務内容の変更によって率を用いない積算に変更する場合がある。）</p>
電子成果品作成費	<p>1. 電子成果品作成費は、「その他の設計業務」を見込んでいる。</p>

【以下余白】

見 積 参 考 資 料

工 事 名 国道 3 1 号坂電線共同溝 P F I 事業（調査業務（試掘調査））

この「見積参考資料」は入札参加者の適切かつ迅速な見積に資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。従って「見積参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を充分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

なお、この「見積参考資料」の有効期間は、この工事の入札日までとする。

国土交通省 中国地方整備局
広島国道事務所 管理第二課

見積参考資料（積算条件）

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業（調査業務（試掘調査）） （当初）			主たる工種	舗装工事
間接費名称	積算条件				条件
	補正項目				
共通仮設費（率計上）	施工地域補正 除雪工事補正			市街地（DID補正）（1）－1 補正無	
現場環境改善費（率計上）	市街地補正			市街地	
現場管理費	施工地域補正 施工時期補正 熱中症補正 緊急工事補正 砂防・地滑り補正			市街地（DID補正）（1）－1 補正しない 補正しない 補正しない 補正しない	
一般管理費等	財団法人等による補正 前払金割合による補正 契約保証に係る補正			補正しない 35%を超えるもの・補正しない 発注者が金銭的保証を必要とする場合	
その他	ICT施工補正 週休2日の補正			補正しない 週休2日（閉所）完全週休2日（土日）	

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業（調査業務（試掘調査））					(当初)	工種区分	舗装工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
道路維持			式		1					
舗装工			式		1					
アスファルト舗装工			式		1					
表層(歩道部)	再生粗粒度アソソ(20) 舗装厚 40mm 1.4m未満(1層当たり平均仕上り厚50mm以下)	m2			23	< 1 m2当たり > 表層(歩道部)	m 2		1	
下層路盤(歩道部)	再生カラッシャン RC-30 仕上り厚 100mm	m2			23	< 1 m2当たり > 下層路盤(歩道部)	m 2		1	
構造物撤去工			式		1					
作業土工			式		1					
床掘り	土砂	m3			23	< 1 m3当たり > 床掘り	m 3		1	
埋戻し	土砂	m3			23	< 1 m3当たり > 埋戻し	m 3		1	
構造物取壊し工			式		1					

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業（調査業務（試掘調査））					(当初)	工種区分	舗装工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
舗装版切断	アスファルト舗装版 15cm以下	m	m		92		< 1 m当たり> 舗装版切断	m	1	
舗装版破碎	アスファルト舗装版 舗装版厚 4cm	m2	m2		23		< 1 m2当たり> 舗装版破碎	m 2	1	
運搬処理工		式			1					
殻運搬	アスファルト殻	m3			0.9		< 1 m3当たり> 殻運搬	m 3	1	
殻処分	アスファルト殻	m3			0.9		< 1 m3当たり> 処分費(m3)	m 3	1	
仮設工		式			1					
交通管理工		式			1					
交通誘導警備員		人日			12		< 1 人日当たり> 交通誘導警備員A	人日	1	
交通誘導警備員		人日			12		< 1 人日当たり> 交通誘導警備員B	人日	1	
直接工事費		式			1					

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業（調査業務（試掘調査））					(当初)	工種区分	舗装工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
共通仮設費			式		1					
共通仮設費			式		1					
現場環境改善費（率計上）			式		1		市街地補正=市街地			
共通仮設費（率計上）			式		1		施工地域補正=市街地（DID補正）（1）-1；除雪工補正=補正無；ICT施工補正=しない；週休2日の補正=週休2日（閉所）完全週休2日（土日）			
純工事費			式		1					
現場管理費			式		1		施工地域補正=市街地（DID補正）（1）-1；緊急工事補正=しない；砂防・地滑り工事補正=しない；ICT施工補正=しない；週休2日の補正=週休2日（閉所）完全週休2日（土日）			
工事原価			式		1					
一般管理費等			式		1					
工事価格			式		1					
消費税相当額			式		1					

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業（調査業務（試掘調査））					(当初)	工種区分	舗装工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
工事費計		式			1		建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用等）が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

見積参考資料（管理費区分一覧表）

凡 例	管理費区分1 共通仮設費のみ非対象	管理費区分2 工場管理費・一般管理費の対象	管理費区分5 一般管理費等対象	管理費区分7 間接労務費対象労務費					
	管理費区分9 率計算の非対象	管理費区分T 処分費等の対象にする							
○：該当する管理費区分が含まれている									
工事名		国道31号坂電線共同溝PFI事業（調査業務（試掘調査））		(当初)					
		事業区分	道路維持・修繕						
		工事区分	道路維持						
細別名称		規格	単位	数量	管理費区分1 管理費区分T	管理費区分2	管理費区分5	管理費区分7	管理費区分9
殻処分		アスファルト殻	m ³	0.9	○				

見 積 参 考 資 料

工 事 名 国道 3 1 号坂電線共同溝PFI事業

この「見積参考資料」は入札参加者の適切かつ迅速な見積に資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。従って「見積参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を充分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

なお、この「見積参考資料」の有効期間は、この工事の入札日までとする。

国土交通省 中国地方整備局
広島国道事務所 管理第二課

見積参考資料（積算条件）

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業	(当 初)	主たる工種	C・C・BOX工事
間接費名称		積算条件		
		補正項目		条件
共通仮設費（率計上）		施工地域補正 除雪工事補正		市街地（DID補正）（1）－1 補正無
現場環境改善費（率計上）		市街地補正		市街地
現場管理費		施工地域補正 施工時期補正 熱中症補正 緊急工事補正 砂防・地滑り補正		市街地（DID補正）（1）－1 補正しない 補正しない 補正しない 補正しない
一般管理費等		財団法人等による補正 前払金割合による補正 契約保証に係る補正		補正しない 35%を超えるもの・補正しない 発注者が金銭的保証を必要とする場合
その他		ICT施工補正 週休2日の補正		補正しない 週休2日（閉所）完全週休2日（土日）

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業					(当初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
電線共同溝			式		1					
仮設工			式		1					
仮舗装工 仮舗装(A)			式		1					
基層(車道・路肩部)	再生粗粒度As(20) t=50mm		m2		756	< 1 m2当たり> 基層(歩道部) 平均幅員=1.4m未満(1層当たり平均仕上り厚50mm以下) ; 1層当たり平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=再生粗粒度アスコン(20); 漆青材料種類=タックコートPK-4; 費用の内訳=全ての費用;	m2		1	
表層(車道・路肩部)	再生粗粒度As(20) t=50mm		m2		756	< 1 m2当たり> 表層(歩道部) 平均幅員=1.4m未満(1層当たり平均仕上り厚50mm以下) ; 1層当たり平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=50 mm; 材料=再生粗粒度アスコン(20); 漆青材料種類=タックコートPK-4; 費用の内訳=全ての費用;	m2		1	
仮舗装工 仮舗装(B)			式		1					
下層路盤(歩道部)	RC-30 t=100mm		m2		1,100	< 1 m2当たり> 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=100 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシャンRC-30; 費用の内訳=全ての費用;	m2		1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
表層(歩道部)	再生粗粒度As(20) t=40mm	m2		1,100		< 1 m2当り > 表層(歩道部) 平均幅員=1.4m未満(1層当り平均仕上り厚50mm以下) ; 1層当り平均仕上り厚(50mm以下)(実数入力)=40 mm; 材料=再生粗粒度アスコン(20); 潜青材料種類=アライムコートPK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1	
土留・仮締切工		式		1					
軽量鋼矢板		式		1		軽量鋼矢板設置・撤去 軽量鋼矢板賃料 軽量鋼矢板賃料 軽量鋼矢板賃料 アルミ製腹起し賃料 アルミ製切梁賃料	m 式 式 式 式 式	205 1 1 1 1 1	
固結工		式		1					
薬液注入 ML1 側壁部	削孔長4.25m 土被り1.70m 注入量848L	本		36		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット; リキ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=848 L/本; 水ガラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	1	
薬液注入 ML1 底盤部	削孔長4.25m 土被り2.75m 注入量562L	本		10		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット; リキ質土の削孔長(実数入力)=0 m; 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m; 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m; 土被り長(L2)(実数入力)=2.75 m; 1本当り注入量(QS)(実数入力)=562 L/本; 水ガラス積算流量計の有無=無; 特許料の有無=無;	本	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 TL1 側壁部	削孔長3.90m 土被り1.70m 注入量925L	本		20		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； け質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.9 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=925 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 TL1 底盤部	削孔長3.90m 土被り2.40m 注入量523L	本		4		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； け質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.9 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.4 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=523 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 TL3 側壁部	削孔長3.90m 土被り1.70m 注入量925L	本		20		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； け質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.9 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=925 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 TL3 底盤部	削孔長3.90m 土被り2.40m 注入量523L	本		4		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； け質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.9 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.4 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=523 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 DL1 側壁部	削孔長3.86m 土被り1.70m 注入量906L	本		20		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.86 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=906 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 DL1 底盤部	削孔長3.86m 土被り2.36m 注入量560L	本		4		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.86 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.36 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=560 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 ML2 側壁部	削孔長4.25m 土被り1.70m 注入量848L	本		36		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=848 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 ML2 底盤部	削孔長4.25m 土被り2.75m 注入量562L	本		10		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.75 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=562 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 ML3 側壁部	削孔長4.25m 土被り1.70m 注入量848L	本			36	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=848 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 ML3 底盤部	削孔長4.25m 土被り2.75m 注入量562L	本			10	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.75 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=562 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 ML4 側壁部	削孔長4.25m 土被り1.70m 注入量848L	本			36	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=848 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 ML4 底盤部	削孔長4.25m 土被り2.75m 注入量562L	本			10	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.75 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=562 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 MR1 側壁部	削孔長4.55m 土被り1.70m 注入量948L	本			36	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.55 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=948 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 MR1 底盤部	削孔長4.55m 土被り3.05m 注入量562L	本			10	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.55 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=3.05 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=562 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 DR1 側壁部	削孔長3.86m 土被り1.70m 注入量906L	本			20	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.86 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=906 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 DR1 底盤部	削孔長3.86m 土被り2.36m 注入量560L	本			4	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； 砂質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.86 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.36 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=560 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 TR2 側壁部	削孔長3.90m 土被り1.70m 注入量925L	本		20		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； ケイ質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.9 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=925 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 TR2 底盤部	削孔長3.90m 土被り2.40m 注入量523L	本		4		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； ケイ質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.9 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.4 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=523 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 DR2 側壁部	削孔長3.86m 土被り1.70m 注入量906L	本		20		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； ケイ質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.86 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=906 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 DR2 底盤部	削孔長3.86m 土被り2.36m 注入量560L	本		4		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； ケイ質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=3.86 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.36 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=560 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 MR2 側壁部	削孔長4.90m 土被り1.70m 注入量1066L	本			38	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； ケイ質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.9 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=1,066 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 MR2 底盤部	削孔長4.90m 土被り3.40m 注入量560L	本			12	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； ケイ質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.9 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=3.4 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=560 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 DR3 側壁部	削孔長4.25m 土被り1.70m 注入量848L	本			36	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； ケイ質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=848 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 DR3 底盤部	削孔長4.25m 土被り2.75m 注入量562L	本			10	< 1 本当り> 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； ケイ質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.75 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=562 L/本； 水ガラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
薬液注入 MR3 側壁部	削孔長4.25m 土被り1.70m 注入量848L	本		36		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； いわ質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=1.7 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=848 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
薬液注入 MR3 底盤部	削孔長4.25m 土被り2.75m 注入量562L	本		10		< 1 本当り > 二重管ストレーナ工法 セット数=4セット； いわ質土の削孔長(実数入力)=0 m； 砂質土の削孔長(実数入力)=4.25 m； 粘性土の削孔長(実数入力)=0 m； 土被り長(L2)(実数入力)=2.75 m； 1本当り注入量(QS)(実数入力)=562 L/本； 水がラス積算流量計の有無=無； 特許料の有無=無；	本	1	
注入設備 据付・解体		現場		1		注入設備据付・解体 注入方式=二重管ストレーナ工法； セット数=4セット；	現場	1	
注入設備移設		回		31		< 1 回当り > 注入設備移設	回	1	
交通管理工		式		1					
交通誘導警備員		人日		900		交通誘導警備員A 交通誘導警備員B	人日 人日	300 600	
舗装版撤去工		式		1					
舗装版破碎工		式		1					

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
殻運搬	アスファルト殻	m3		117		< 1 m3当たり> 運搬（電線共同溝工） 積載区分=アスファルト塊；DID区間の有無=有り；運搬距離(km)(DID区間有)=22.5km以下；	m 3	1	
殻処分	アスファルト殻	m3		117		【歩道部(2.20t/m3)】 処分費 (m 3) 【歩道部(2.35t/m3)】 処分費 (m 3)	m 3	31	
舗装版切断	アスファルト舗装版 t=1 5cm以下	m		1,420		< 1 m当たり> 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版；アスファルト舗装版厚=15cm以下；費用の内訳=全ての費用；	m	1	
舗装版切断	アスファルト舗装版 t=1 5cmを超える30cm以下	m		1,020		< 1 m当たり> 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版；アスファルト舗装版厚=15cmを超える30cm以下；費用の内訳=全ての費用；	m	1	
舗装版破碎	アスファルト舗装版 t=1 5cm以下	m2		780		< 1 m2当たり> 舗装版破碎積込（電線共同溝工）	m 2	1	
舗装版破碎	アスファルト舗装版 t=1 5cmを超える35cm以下	m2		480		< 1 m2当たり> 舗装版破碎積込	m2	1	
道路土工		式		1					
掘削工(ICT)		式		1					
掘削(ICT)	土砂	m3		290		< 1 m3当たり> 掘削(ICT)	m3	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	m3		290		< 1 m3当り > 土砂等運搬 土砂等発生現場=標準；積込機種・規格=バックホウ山積0.45m ³ (平積0.35m ³)；土質=土砂(岩塊・玉石混り土含む)；DID区間の有無=有り；運搬距離(km)(DID区間有)=5.5km以下；	m 3	1	
整地	敷均し(ル-ズ)	m3		290		< 1 m3当り > 整地 作業区分=敷均し(ル-ズ)；施工数量=標準(10,000m ³ 未満)；障害の有無=無し；	m 3	1	
開削土工		式		1					
掘削工		式		1					
開削掘削		m3		1,600		< 1 m3当り > 床掘り(電線共同溝工)	m 3	1	
土砂等運搬		m3		1,600		< 1 m3当り > 運搬(電線共同溝工) 積載区分=土砂；DID区間の有無=有り；運搬距離(km)(DID区間有)=6.0km以下；	m 3	1	
整地		m3		1,600		< 1 m3当り > 整地 作業区分=敷均し(ル-ズ)；施工数量=標準(10,000m ³ 未満)；障害の有無=無し；	m 3	1	
埋戻し工		式		1					

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
埋戻し・締固め (土砂)		m3		460		< 1 m3当たり> 埋戻し・締固め（電線共同溝工） 土質=土砂；	m 3	1	
埋戻し・締固め (中埋砂)		m3		440		< 1 m3当たり> 埋戻し・締固め（電線共同溝工） 土質=中埋砂；	m 3	1	
積込(ルーズ)		m3		510		< 1 m3当たり> 積込（ルーズ） 土質=土砂；作業内容=土量50,000m3未満；	m 3	1	
土砂等運搬		m3		510		< 1 m3当たり> 土砂等運搬 土砂等発生現場=標準；積込機種・規格=バックホウ山積0.8m3(平積0.6m3)；土質=土砂(岩塊・玉石混り土含む)；DID区間の有無=有り；運搬距離(km)(DID区間有)=5.0km以下；	m 3	1	
残土処理工		式		1					
積込(ルーズ)	土砂	m3		1,500		< 1 m3当たり> 積込（ルーズ） 土質=土砂；作業内容=土量50,000m3未満；	m 3	1	
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	m3		1,530		< 1 m3当たり> 土砂等運搬 土砂等発生現場=標準；積込機種・規格=バックホウ山積0.8m3(平積0.6m3)；土質=土砂(岩塊・玉石混り土含む)；DID区間の有無=有り；運搬距離(km)(DID区間有)=14.0km以下；	m 3	1	
残土等処分		m3		1,530		< 1 m3当たり> 残土等処分	m 3	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
電線共同溝工		式		1					
基礎工		式		1					
敷砂	再生砂 t=50mm	m3		52		< 1 m ³ 当り> 埋戻し 施工方法=現場制約あり；土質=土砂；締固めの有無=無し； 再生砂(材料費)	m 3	1	
管路工(管路部)		式		1					
埋設管路	角型FEP管 φ 150	m		1,405		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=多条管設置；	m	1	
埋設管路	角型FEP管 φ 130	m		206		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=多条管設置；	m	1	
埋設管路	角型FEP管 φ 100	m		1,975		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=多条管設置；	m	1	
埋設管路	角型FEP管 φ 75	m		436		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=多条管設置；	m	1	
埋設管路	PV 直管 φ 75	m		946		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=单管設置；	m	1	
埋設管路	PV 直管 φ 50	m		1,789		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=单管設置；	m	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項		
							名称	単位	数量
埋設管路	VP 直管 φ150・共用FA管	m			412		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1
埋設管路	VP 直管 φ250・ボディ管 さや管 φ50×9条	m			262		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ボディ管(φ250mm)設置(さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ50, φ30使用)；さや管(φ50)の条数(標準以外の組合せ)(実=9本；さや管(φ30)の条数(標準以外の組合せ)(実=0本；	m	1
埋設管路	VP 直管 φ250・ボディ管 さや管 φ50×7条	m			150		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ボディ管(φ250mm)設置(さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ50, φ30使用)；さや管(φ50)の条数(標準以外の組合せ)(実=7本；さや管(φ30)の条数(標準以外の組合せ)(実=0本；	m	1
埋設管路	PV 曲管10R φ75	m			414		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1
埋設管路	PV 曲管10R φ50	m			357		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1
埋設管路	VP 曲管10R φ150・共用FA管	m			198		< 1 m当り > 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
埋設管路	VP 曲管10R φ 250・ボディ管 さや管 φ 50×9条	m		135		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ボディ管(φ 250mm)設置(さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ 50, φ 30使用)；さや管(φ 50)の条数(標準以外の組合せ)(実=9 本；さや管(φ 30)の条数(標準以外の組合せ)(実=0 本；	m	1	
埋設管路	VP 曲管10R φ 250・ボディ管 さや管 φ 50×7条	m		63		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ボディ管(φ 250mm)設置(さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ 50, φ 30使用)；さや管(φ 50)の条数(標準以外の組合せ)(実=7 本；さや管(φ 30)の条数(標準以外の組合せ)(実=0 本；	m	1	
埋設管路	PV 曲管6R φ 75	m		68		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=单管設置；	m	1	
埋設管路	PV 曲管6R φ 50	m		268		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=单管設置；	m	1	
埋設管路	VP 曲管5R φ 150・共用FA管	m		14		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=FA管設置；	m	1	
埋設管路	VP 曲管5R φ 250・ボディ管 さや管 φ 50×9条	m		14		< 1 m当り> 管路材設置 作業区分=埋設部；設置区分=ボディ管(φ 250mm)設置(さや管含む)；さや管の条数=標準以外の組合せ(φ 50, φ 30使用)；さや管(φ 50)の条数(標準以外の組合せ)(実=9 本；さや管(φ 30)の条数(標準以外の組合せ)(実=0 本；	m	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
埋設管路	FEP管 φ 65	m		42		< 1 m当たり> 管路設置 作業区分=埋設部；設置区分=単管設置；	m	1	
スラブ管	VP φ 250	個		13		< 1 個当たり> スラブ管	個	1	
ロータス管 (起点側)	VP φ 250	個		13		< 1 個当たり> ロータス管	個	1	
ロータス管 (終点側)	VP φ 250	個		13		< 1 個当たり> ロータス管	個	1	
中間継手	角型FEP管 φ 150	個		14		< 1 個当たり> 中間継手	個	1	
中間継手	角型FEP管 φ 130	個		2		< 1 個当たり> 中間継手	個	1	
中間継手	角型FEP管 φ 100	個		26		< 1 個当たり> 中間継手	個	1	
中間継手	角型FEP管 φ 75	個		5		< 1 個当たり> 中間継手	個	1	
中間継手	VP管 φ 150	個		13		< 1 個当たり> 中間継手	個	1	
中間継手	PV管 φ 75	個		18		< 1 個当たり> 中間継手	個	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事			
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項				
						名称	単位	数量		
中間継手	PV管 φ 50	個		25		< 1 個当たり> 中間継手	個	1		
埋設表示シート		m		1,811		< 1 m当たり> 埋設表示シート (材料費)	m	1		
アレキヤストボックス工(特殊部)		式		1						
アレキヤストボックス ML1	B1.35×H1.80×L4 .50	基		1		基礎砕石 砕石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 砕石の種類=再生グラッシュ 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=バックホウ(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トヨル内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); アレキヤストボックス設置 アレキヤストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレン貨料補正係数=標準; アレキヤストボックス (材料費) ベルマウス (材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋 (材料費)	m 2 m 3 t	6 2 0.13		

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス ML2	B1.35×H1.80×L4 .50	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組	6 2 0.13 1 1 1 28 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス ML3	B1.35×H1.80×L4 .50	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組	6 2 0.13 1 1 1 25 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス ML4	B1.35×H1.80×L4 .50	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組	6 2 0.13 1 1 1 11 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス MR3	B1.35×H1.80×L4 .50	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組	6 2 0.13 1 1 1 16 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス MR1	B1.35×H1.80×L4 .50	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組	6 2 0.13 1 1 1 12 2 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス MR2	B1.35/2.15×H1.8 0×L4.50	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=4000kgを超える11000kg以下; ラフテーンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=800kgを超える2000kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組	7 2 0.15 1 1 1 33 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス DL1	B1.20×H1.50×L1 .80	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテーンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組 組	2 0.5 0.04 1 1 1 8 1 1 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス DR1	B1.20×H1.50×L1 .80	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテーンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組 組	2 0.5 0.04 1 1 1 8 1 1 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス DR2	B1.20×H1.50×L1 .80	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組	2 0.5 0.04 1 1 1 8 2 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス DR3	B1.35×H1.50×L4.50					基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテーンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋設置 蓋1組当たり質量=800kgを超える2000kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組 組	6 2 0.13 1 1 1 9 1 1 1 1	
		基	1						

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス TL1	B1.00×H1.70×L2 .20	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組	2 0.6 0.03 1 1 1 10 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス TL3	B1.00×H1.70×L2 .20	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 基 個 組 組	2 0.6 0.03 1 1 1 16 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
プレキャストボックス TR2	B1.00×H1.70×L2 .20	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類=再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; コンクリート 構造物種別=無筋・鉄筋構造物; 打設工法=パック式(クレーン機能付)打設; コンクリート規格=24-12-25(20)(高炉); 養生工の種類=一般養生; 費用の内訳=全ての費用; 鉄筋工〔市場単価〕 鉄筋材料規格・径=SD345 D16~25; 規格・仕様区分=一般構造物; 施工規模=10t未満; 時間的制約を受ける場合の補正=無; 夜間作業補正=無; トロリ内作業の補正=無; 法面作業の補正=無; 太径鉄筋補正=補正無(鉄筋割合10%未満含む); 構造物種別による補正=補正無(一般構造物); プレキャストボックス設置 プレキャストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレーン賃料補正係数=標準; プレキャストボックス(材料費) ベルマウス(材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋(材料費)	m 2 m 3 t 基 個 基 個 組 組	2 0.6 0.03 1 1 1 20 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
ブレキヤストボックス TL2	B0.50×H1.05×L2 .00	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; モルタル練 セメント種類=高炉; 費用の内訳=全ての費用; ブレキヤストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレン貨料補正係数=標準; ブレキヤストボックス (材料費) ベルマウス (材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋 (材料費)	m 2 m 3 個 基 個 組 組	2 0.04 1 1 4 1 1	
ブレキヤストボックス TL4	B0.50×H1.05×L2 .00	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; モルタル練 セメント種類=高炉; 費用の内訳=全ての費用; ブレキヤストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレン貨料補正係数=標準; ブレキヤストボックス (材料費) ベルマウス (材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋 (材料費)	m 2 m 3 個 基 個 組 組	2 0.04 1 1 4 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
ブレキヤストボックス TR1	B0.50×H1.05×L2 .00	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; モルタル練 セメント種類=高炉; 費用の内訳=全ての費用; ブレキヤストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレン貨料補正係数=標準; ブレキヤストボックス (材料費) ベルマウス (材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋 (材料費)	m 2 m 3 個 基 個 組 組	2 0.04 1 1 6 1 1	
ブレキヤストボックス TR3	B0.50×H1.05×L2 .00	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; モルタル練 セメント種類=高炉; 費用の内訳=全ての費用; ブレキヤストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレン貨料補正係数=標準; ブレキヤストボックス (材料費) ベルマウス (材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋 (材料費)	m 2 m 3 個 基 個 組 組	2 0.04 1 1 6 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
ブレキヤストボックス TR4	B0.50×H1.05×L2 .00	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; モルタル練 セメント種類=高炉; 費用の内訳=全ての費用; ブレキヤストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kgを超える4000kg以下; ラフテレンクレン貨料補正係数=標準; ブレキヤストボックス (材料費) ベルマウス (材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kgを超える800kg以下; 蓋 (材料費)	m 2 m 3 個 基 個 組 組	2 0.04 1 1 6 1 1	
ブレキヤストボックス BL1	B0.60×H0.415×L 1.20	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下; 碎石の種類= 再生クラッシャン 40~0; 費用の内訳=全ての費用; モルタル練 セメント種類=高炉; 費用の内訳=全ての費用; ブレキヤストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kg以下; ラフテレンクレン貨 料補正係数=標準; ブレキヤストボックス (材料費) ベルマウス (材料費) 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kg以下; 蓋 (材料費)	m 2 m 3 個 基 個 組 組	1 0.03 1 1 2 1 1	

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業					(当初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項				
						名称	単位	数量		
ブレキヤストボックス BL2	B0.60×H0.415×L 1.20	基		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下；碎石の種類=再生クラッシャー40～0；費用の内訳=全ての費用； モルタル練 セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用； ブレキヤストボックスブロック設置 ボックスブロック1個当たり質量=1000kg以下；ラテレンクレーン貨料補正係数=標準； ブレキヤストボックス（材料費） ベルマウス（材料費） 蓋設置 蓋1組当たり質量=200kg以下； 蓋（材料費）	m 2 m 3 個 基 個 組 組	1 0.03 1 1 6 1 1		
現場打ボックス工(特殊部)	式		1							
現場打ボックス PR1		箇所		1		基礎碎石 碎石の厚さ=7.5cmを超える12.5cm以下；碎石の種類=再生クラッシャー40～0；費用の内訳=全ての費用； 型枠 型枠の種類=一般型枠；構造物の種類=小型構造物； コンクリート 構造物種別=小型構造物；打設工法=人力打設；コンクリート規格=18-8-40(高炉)；養生工の種類=一般養生； 現場内小運搬の有無=無し；費用の内訳=全ての費用；	m 2 m 2 m 3	0.6 1 0.2		
付帯設備工	式		1							
管路布設工	式		1							

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項		
							名称	単位	数量
管路管台	PV管用 φ 75-130 P	個			1,670		< 1 個当たり > 管路管台	個	1
管路管台	PV管用 φ 50-95P	個			1,704		< 1 個当たり > 管路管台	個	1
管路管台	VP管用 φ 150-22 OP	個			384		< 1 個当たり > 管路管台	個	1
管路管台	VP管用 φ 250-32 5P	個			765		< 1 個当たり > 管路管台	個	1
舗装工		式			1				
アスファルト舗装工 車道舗装(A)		式			1				
下層路盤(車道・路肩部)	RC-40 t=200mm	m2			756		< 1 m2当たり > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=200 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシャン RC-40; 費用の内訳=全ての費用 ;	m 2	1
上層路盤(車道・路肩部)	RM-40 t=150mm	m2			756		< 1 m2当たり > 上層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=150 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生粒度調整碎石 RM-40; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項		
							名称	単位	数量
上層路盤(車道・路肩部)	再生As安定処理(30) t=80mm		m2		756		< 1 m2当たり > 上層路盤(車道・路肩部) 材料=路盤材(各種); 平均幅員=1.4m未満(1層当たり平均仕上り厚50mmを超え100mm以下); 1層当たり平均仕上り厚(50mm超100mm以下)(実=80 mm; 潤青材料種類=プライムコートPK-3; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1
透水性舗装工 歩道舗装(A)		式		1					
フィルター層	再生砂 t=50mm		m2		1,920		< 1 m2当たり > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m 2	1
下層路盤(歩道部)	RC-30 t=100mm		m2		1,920		< 1 m2当たり > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=100 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシャンRC-30; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1
表層	透水性As(13) t=40mm		m2		1,920		< 1 m2当たり > 透水性アスファルト舗装 平均幅員=1.4m以上2.4m未満; 1層当たり平均仕上り厚(70mm以下)(実数入力)=40 mm; 材料=各種(2.10以上2.20t/m3未満);	m 2	1
ブロック舗装工 ブロック舗装(A)		式		1					
フィルター層	再生砂 t=50mm		m2		288		< 1 m2当たり > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m 2	1

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項		
							名称	単位	数量
下層路盤(歩道部)		RC-30 t=70mm	m2		288		< 1 m2当たり > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=70 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシャン RC-30; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1
特殊ブロック舗装	視覚障害者誘導用 ブロック 透水性(線 状)300×300		m2		288		< 1 m2当たり > 特殊ブロック舗装 作業区分=設置; ブロック規格=30cm×30cm;	m 2	1
ブロック舗装工 ブロック舗装(B)		式		1					
フィルター層	再生砂 t=50mm		m2		10		< 1 m2当たり > フィルター層 平均厚さ=40mm以上60mm未満;	m 2	1
下層路盤(歩道部)	RC-30 t=70mm		m2		10		< 1 m2当たり > 下層路盤(歩道部) 全仕上り厚(実数入力)=70 mm; 施工区分=1層施工; 材料=再生クラッシャン RC-30; 費用の内訳=全ての費用;	m 2	1
特殊ブロック舗装	視覚障害者誘導用 ブロック 透水性(点 状)300×300		m2		10		< 1 m2当たり > 特殊ブロック舗装 作業区分=設置; ブロック規格=30cm×30cm;	m 2	1
切削オーバーレイ工 切削オーバーレイ(A)		式		1					
切削オーバーレイ	切削 : Mt=100mm 基層 : 再生粗粒度 As改質II型(20) t =50mm 表層 : ポリマ ー改質ASH型(13) t =50mm		m2		7,200		< 1 m2当たり > 切削オーバーレイ	m2	1

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項		
							名称	単位	数量
殻運搬(路面切削)	アスファルト切削屑	m3			720		< 1 m3当たり> 殻運搬 (路面切削) DID区間の有無=有り；運搬距離(km) (DID区間有)=36.0km以下；費用の内訳=全ての費用；	m 3	1
殻処分	アスファルト切削屑	m3			720		< 1 m3当たり> 処分費 (m 3)	m 3	1
排水構造物工		式			1				
作業土工		式			1				
床掘り	土砂	m3			350		< 1 m3当たり> 床掘り 土質=土砂；施工方法=平均施工幅1m以上2m未満；土留方式の種類=無し；障害の有無=無し；	m 3	1
床掘り	土砂	m3			20		< 1 m3当たり> 床掘り 土質=土砂；施工方法=上記以外(小規模)；費用の内訳=全ての費用；	m 3	1
埋戻し		m3			200		< 1 m3当たり> 埋戻し 施工方法=最大埋戻幅1m未満；	m 3	1
埋戻し	土砂	m3			20		< 1 m3当たり> 埋戻し 施工方法=上記以外(小規模)；土質=土砂；費用の内訳=全ての費用；	m 3	1
基面整正		m2			489		< 1 m2当たり> 基面整正	m 2	1

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業					(当初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	m3			124		< 1 m3当たり> 土砂等運搬 土砂等発生現場=標準；積込機種・規格=バックホウ山積0.45m ³ (平積0.35m ³)；土質=土砂(岩塊・玉石混り土含む)；DID区間の有無=有り；運搬距離(km)(DID区間有)=5.5km以下；	m3	1	
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	m3			6		< 1 m3当たり> 土砂等運搬 土砂等発生現場=小規模；積込機種・規格=バックホウ山積0.28m ³ (平積0.2m ³)；土質=土砂(岩塊・玉石混り土含む)；DID区間の有無=有り；運搬距離(km)(DID区間有)=5.5km以下；	m3	1	
整地	敷均し(ルーズ)	m3			130		< 1 m3当たり> 整地 作業区分=敷均し(ルーズ)；施工数量=標準(10,000m ³ 未満)；障害の有無=無し；	m3	1	
側溝工		式			1					
管(函)渠型側溝 円形側溝(A)		m			723		< 10 m当たり> 管(函)渠型側溝 作業区分=据付；内径又は内空幅(mm)=200mm以上300mm以下；基礎碎石の有無=有り；費用の内訳=全ての費用；	m	10	
管(函)渠型側溝 円形側溝(B)		m			94		< 10 m当たり> 管(函)渠型側溝 作業区分=据付；内径又は内空幅(mm)=200mm以上300mm以下；基礎碎石の有無=有り；費用の内訳=全ての費用；	m	10	
管渠工		式			1					

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
暗渠排水管 1号排水管		m		82		< 10 m当り> 暗渠排水管 作業区分=据付；管種別=直管；呼び径=200～400mm； 費用の内訳=全ての費用；	m	10	
鉄筋コンクリート台付管 CP-PH-D400		m		13		< 10 m当り> 鉄筋コンクリート台付管 作業区分=据付；管径=400mm；1個当りの管長さ(実数入力)=2 m/個；費用の内訳=全ての費用； モルタル練 セメント種類=高炉；費用の内訳=全ての費用；	m 3	0.105	
集水桟・マンホール工		式		1					
プレキャスト集水桟 1号集水桟		箇所		35		< 1 箇所当り> プレキャスト集水桟 作業区分=据付；製品質量(kg/基)=50kg以上80kg以下；基礎砕石の有無=有り；費用の内訳=全ての費用； プレキャスト集水桟(材料費)	基	1	
縁石工		式		1					
縁石工		式		1					
歩車道境界ブロック BB-2-3(200)		m		12		< 10 m当り> 歩車道境界ブロック 作業区分=設置；ブロック規格=各種(600mm以下、50kg以上100kg未満)；m当り歩車道境界ブロック使用量(実数入力)=1.65 個/m；基礎砕石規格=再生ケラッシャン RC-40；均し基礎コンクリート規格=無し；	m	10	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
歩車道境界ブロック 1号歩車道境界ブロック		m		761		< 10 m当り > 歩車道境界ブロック 作業区分=設置；ブロック規格=各種(600mm以下、50kg以上100kg未満)；m当り歩車道境界ブロック使用量(実数入力)=1.65 個/m；基礎碎石規格=無し；均し基礎コンクリート規格=無し；	m	10	
歩車道境界ブロック 2号歩車道境界ブロック		m		15		< 10 m当り > 歩車道境界ブロック 作業区分=設置；ブロック規格=各種(600mm以下、50kg未満)；m当り歩車道境界ブロック使用量(実数入力)=1.65 個/m；基礎碎石規格=再生ケラシヤン RC-40；均し基礎コンクリート規格=無し；	m	10	
防護柵工		式		1					
防止柵工		式		1					
転落(横断)防止柵	P種 縦格子 H=1.1 m 土中建込 支柱 間隔3.0m ターケブドラ ウ	m		24		< 1 m当り > 防護柵(横断・転落防止柵)設置工 施工区分=土中建込；防護柵種類=ビーム式・パネル式； 支柱間隔=3m；根巻きコンクリートの有無=無；施工規模による加算=50m未満；夜間作業の補正=無；	m	1	
区画線工		式		1					
区画線工		式		1					

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
溶融式区画線	白色 実線 W=15cm 厚1.5mm 排水性 舗装用	m		2,000		< 1 m当り > 区画線設置 夜間作業の有無=無し；施工方法区分=溶融式手動； 豪雪補正の有無=無し；規格・仕様区分=実線 15cm； 時間的制約の有無=著しく有り；塗布厚=1.5mm；排 水性舗装に施工する場合の補正=有り；未供用区間 の場合の補正=無し；溶融式塗料規格=含有量15～18 %；塗料区分=白；プライマー規格=アスファルト舗 装；費用の内訳=全ての費用；	m	1	
溶融式区画線	白色 破線 W=15cm 厚1.5mm 排水性 舗装用	m		1,000		< 1 m当り > 区画線設置 夜間作業の有無=無し；施工方法区分=溶融式手動； 豪雪補正の有無=無し；規格・仕様区分=破線 15cm； 時間的制約の有無=著しく有り；塗布厚=1.5mm；排 水性舗装に施工する場合の補正=有り；未供用区間 の場合の補正=無し；溶融式塗料規格=含有量15～18 %；塗料区分=白；プライマー規格=アスファルト舗 装；費用の内訳=全ての費用；	m	1	
溶融式区画線	白色 ゼブラ W=45cm 厚1.5mm 排水性 舗装用	m		1,000		< 1 m当り > 区画線設置 夜間作業の有無=無し；施工方法区分=溶融式手動； 豪雪補正の有無=無し；規格・仕様区分=ゼブラ 45cm ；時間的制約の有無=著しく有り；塗布厚=1.5mm； 排水性舗装に施工する場合の補正=有り；未供用区 間の場合の補正=無し；溶融式塗料規格=含有量15～ 18%；塗料区分=白；プライマー規格=アスファルト 舗装；費用の内訳=全ての費用；	m	1	

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業					(当初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
溶融式区画線	白色 矢印・記号・ 文字 W=15cm換算 厚1.5mm 排水性舗装用	m			500		< 1 m当たり> 区画線設置 夜間作業の有無=無し；施工方法区分=溶融式手動； 豪雪補正の有無=無し；規格・仕様区分=矢印・記号・ 文字 15cm換算；時間的制約の有無=著しく有り；塗布厚=1.5mm；排水性舗装に施工する場合の補正=有り；未供用区間の場合の補正=無し；溶融式塗料規格=含有量15~18%；塗料区分=白；プライマー規格=アスファルト舗装；費用の内訳=全ての費用；	m	1	
道路付属施設工		式		1						
作業土工		式		1						
床掘り	土砂	m3		33			< 1 m3当たり> 床掘り 土質=土砂；施工方法=平均施工幅1m以上2m未満；土留方式の種類=無し；障害の有無=無し；	m 3	1	
床掘り	土砂	m3		7			< 1 m3当たり> 床掘り 土質=土砂；施工方法=上記以外(小規模)；費用の内訳=全ての費用；	m 3	1	
埋戻し		m3		4			< 1 m3当たり> 埋戻し 施工方法=最大埋戻幅1m未満；	m 3	1	
埋戻し	土砂	m3		5			< 1 m3当たり> 埋戻し 施工方法=上記以外(小規模)；土質=土砂；費用の内訳=全ての費用；	m 3	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	m3		29		< 1 m3当り > 土砂等運搬 土砂等発生現場=標準； 積込機種・規格=バックホウ山積0.45m ³ (平積0.35m ³)； 土質=土砂(岩塊・玉石混り土含む)； DID区間の有無=有り； 運搬距離(km)(DID区間有)=5.5km以下；	m 3	1	
土砂等運搬	土砂(岩塊・玉石混り土含む)	m3		1		土砂等運搬 土砂等発生現場=小規模； 積込機種・規格=バックホウ山積0.28m ³ (平積0.2m ³)； 土質=土砂(岩塊・玉石混り土含む)； DID区間の有無=有り； 運搬距離(km)(DID区間有)=5.5km以下；	m 3	1	
整地	敷均し(ルーフィング)	m3		30		< 1 m3当り > 整地 作業区分=敷均し(ルーフィング)； 施工数量=標準(10,000m ³ 未満)； 障害の有無=無し；	m 3	1	
道路付属物工		式		1					
施工標示錨		個		2		< 1 個当り > 施工標示錨 (材料費)	個	1	
ケーブル配管工		式		1					
(ケーブル配管)K-1		m		15		< 10 m当り > 波付硬質合成樹脂管 (F E P) 敷設 作業種別=道路沿い(地中)； 作業内容による補正=新設； 管規格=FEP 50mm； 条数による補正=1 条； 付属品率計上=0 %； 埋戻し・締固め工 埋設標識シート (材料費)	m	10	
							m 3	0.462	
							m	10	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
(ケーブル配管)K-2		m		20		< 10 m当り> 波付硬質合成樹脂管 (FEP) 敷設 作業種別=道路沿い(地中); 作業内容による補正=新設; 管規格=FEP 50mm; 条数による補正=2 条; 付属品率計上=0 %; 埋戻し・締固め工 埋設標識シート (材料費)	m	10	
(ケーブル配管)K-3		m		79		< 10 m当り> 波付硬質合成樹脂管 (FEP) 敷設 作業種別=道路沿い(地中); 作業内容による補正=新設; 管規格=FEP 50mm; 条数による補正=3 条; 付属品率計上=0 %; 埋戻し・締固め工 埋設標識シート (材料費)	m	10	
(ケーブル配管)K-4		m		6		< 10 m当り> 波付硬質合成樹脂管 (FEP) 敷設 作業種別=道路沿い(地中); 作業内容による補正=新設; 管規格=FEP 65mm; 条数による補正=2 条; 付属品率計上=0 %; 波付硬質合成樹脂管 (FEP) 敷設 作業種別=道路沿い(地中); 作業内容による補正=新設; 管規格=FEP 50mm; 条数による補正=1 条; 付属品率計上=0 %; 埋戻し・締固め工 埋設標識シート (材料費)	m	10	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
(ケーブル配管)K-5		m		19		< 10 m当り> 波付硬質合成樹脂管 (FEP) 敷設 作業種別=道路沿い(地中); 作業内容による補正=新設; 管規格=FEP 65mm; 条数による補正=2 条; 付属品率計上=0 %; 波付硬質合成樹脂管 (FEP) 敷設 作業種別=道路沿い(地中); 作業内容による補正=新設; 管規格=FEP 50mm; 条数による補正=2 条; 付属品率計上=0 %; 埋戻し・締固め工 埋設標識シート (材料費)	m	10	
(ケーブル配管)K-6		m		50		< 10 m当り> 波付硬質合成樹脂管 (FEP) 敷設 作業種別=道路沿い(地中); 作業内容による補正=新設; 管規格=FEP 65mm; 条数による補正=2 条; 付属品率計上=0 %; 埋戻し・締固め工 埋設標識シート (材料費)	m	10	
ペルマウス	FEP φ 50用	個		10		< 1 個当り> ペルマウス	個	1	
ペルマウス	FEP φ 65用	個		10		< 1 個当り> ペルマウス	個	1	
照明工		式		1					

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業						(当初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項					
						名称	単位	数量			
照明柱基礎 C1						< 1 基当り > 抵抗板付鋼製杭基礎打込及び引抜(同日施工3回以上) 夜間作業の有無=無し; 時間的制約の有無=著しく受ける; 抵抗板付鋼製杭基礎材料費 (H形鋼杭) コンクリート 構造物種別=小型構造物; 打設工法=人力打設; ソクリ-ト規格=18-8-40(高炉); 養生工の種類=一般養生; 現場内小運搬の有無=無し; 費用の内訳=全ての費用; 型枠 型枠の種類=一般型枠; 構造物の種類=小型構造物; 接地設置 作業種別=D種接地; 基礎床掘3m以内の施工による補正=補正あり; 連結式接地棒 規格=径10×1500; 連結式接地棒用リード端子 規格=径10用 8mm ² ×500; 硬質ビニル電線管 (V E) 規格=呼び径 16; 付属品率(実数)=0 %; I V電線 (600Vビニル絶縁電線) 電線規格=IV 3.5mm ² ;	回 t m 3 m 2 極 本 本 m m	1 0.581 0.147 0.84 1 1 1 1 3			
		基	2								

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
照明柱基礎 C2		基		1		抵抗板付鋼製杭基礎打込及び引抜(同日施工3回以上) 夜間作業の有無=無し; 時間的制約の有無=著しく受ける; 抵抗板付鋼製杭基礎材料費 (H形鋼杭) コンクリート 構造物種別=小型構造物; 打設工法=人力打設; ソクリ-ト規格=18-8-40(高炉); 養生工の種類=一般養生; 現場内小運搬の有無=無し; 費用の内訳=全ての費用; 型枠 型枠の種類=一般型枠; 構造物の種類=小型構造物; 接地設置 作業種別=D種接地; 基礎床掘3m以内の施工による補正=補正あり; 連結式接地棒 規格=径10×1500; 連結式接地棒用リード端子 規格=径10用 8mm ² ×500; 硬質ビニル電線管 (V E) 規格=呼び径 16; 付属品率(実数)=0 %; IV電線 (600Vビニル絶縁電線) 電線規格=IV 3.5mm ² ;	回 t m 3 m 2 極 本 本 m m	1 0.377 0.127 0.78 1 1 1 1 3	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
照明柱基礎 C3						抵抗板付鋼製杭基礎打込み引抜(同日施工3回以上) 夜間作業の有無=無し; 時間的制約の有無=著しく受ける; 抵抗板付鋼製杭基礎材料費 (H形鋼杭) コンクリート 構造物種別=小型構造物; 打設工法=人力打設; ソクリ-ト規格=18-8-40(高炉); 養生工の種類=一般養生; 現場内小運搬の有無=無し; 費用の内訳=全ての費用; 型枠 型枠の種類=一般型枠; 構造物の種類=小型構造物; 接地設置 作業種別=D種接地; 基礎床掘3m以内の施工による補正=補正あり; 連結式接地棒 規格=径10×1500; 連結式接地棒用リード端子 規格=径10用 8mm2×500; 硬質ビニル電線管 (V E) 規格=呼び径 16; 付属品率(実数)=0 %; IV電線 (600Vビニル絶縁電線) 電線規格=IV 3.5mm2;	回 t m 3 m 2 極 本 本 m m	1 0.411 0.127 0.78 1 1 1 1 1 3	
電気設備		基	1			電気設備	式	1	
構造物撤去工		式		1					
構造物取壊し工		式		1					

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
コンクリート構造物取壊し	無筋構造物	m3		58		< 1 m3当り> 構造物とりこわし 構造物区分=無筋構造物；工法区分=機械施工；時間的制約の有無=著しく有り；夜間作業の有無=無し；低騒音・低振動対策=必要；	m 3	1	
舗装版切断	アスファルト舗装版 t=1 5cm以下	m		1,150		< 1 m当り> 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版；アスファルト舗装版厚=15cm以下；費用の内訳=全ての費用；	m	1	
舗装版切断	アスファルト舗装版 t=1 5cmを超えて30cm以下	m		960		< 1 m当り> 舗装版切断 舗装版種別=アスファルト舗装版；アスファルト舗装版厚=15cmを超えて30cm以下；費用の内訳=全ての費用；	m	1	
舗装版破碎	アスファルト舗装版 t=1 5cm以下	m2		2,270		< 1 m2当り> 舗装版破碎 舗装版種別=アスファルト舗装版；障害等の有無=無し；騒音振動対策=必要；舗装版厚=15cm以下；積込作業の有無=有り；費用の内訳=全ての費用；	m 2	1	
舗装版破碎	アスファルト舗装版 t=1 5cmを超えて35cm以下	m2		290		< 1 m2当り> 舗装版破碎 舗装版種別=アスファルト舗装版；障害等の有無=無し；騒音振動対策=必要；舗装版厚=15cmを超えて35cm以下；積込作業の有無=有り；費用の内訳=全ての費用；	m 2	1	
運搬処理工		式		1					
殻運搬	コンクリート殻(無筋)	m3		58		< 1 m3当り> 殻運搬 殻発生作業=コンクリート(無筋)構造物とりこわし；積込工法区分=機械積込；DID区間の有無=有り；運搬距離(km) (DID区間有無)=28.4km以下；費用の内訳=全ての費用；	m 3	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項		
							名称	単位	数量
殻運搬	アスファルト殻		m3		144		< 1 m3当たり > 殻運搬 殻発生作業=舗装版破碎；積込工法区分=機械積込（騒音対策不要、厚15cm超）又（騒音対策必要）；DID区間の有無=有り；運搬距離(km) (DID区間有)=28.5km以下；費用の内訳=全ての費用；	m 3	1
殻処分	コンクリート殻(無筋)		m3		58		< 1 m3当たり > 処分費 (m 3)	m 3	1
殻処分	アスファルト殻		m3		144		【車道部(2.35t/m3)】 処分費 (m 3) 【歩道部(2.20t/m3)】 処分費 (m 3)	m 3	53
直接工事費		式			1				
共通仮設費		式			1				
共通仮設費		式			1				
運搬費		式			1				
建設機械運搬費		台			2		< 1 台当たり > 貨物自動車による運搬 (1車1回) 運搬区分=路面切削機(ホイール式・廃材積込装置付) 2.0m；片道運搬距離(実数入力)=13.1 km；その他の諸料金の有無=無；運搬中の賃料(損料)の有無=有；	台	1

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
仮設材運搬費		t		6.4		< 1 t当り > 仮設材等(鋼矢板、H形鋼、覆工板、敷鉄板等)の運搬 発注機関区分=北海道・東北・北陸・中国・四国・九州； 片道運搬距離(実数入力)=13.1 km；製品長区分=12m 以内；運搬割増率=各種(実数入力)；運搬割増率(実 数入力)=0 無；その他の諸料金の有無=無； 仮設材等の積込み、取卸し費 作業区分=積込み、取卸し(片道分)；	t	1	
技術管理費		式		1					
道路施設基本データ作成費		式		1		道路施設基本データ作成費	式	1	
道路工事完成図等の作成費		式		1		道路工事完成図等の作成費	式	1	
調査業務 (地質調査)		式		1		調査業務 (地質調査)	式	1	
調査業務 (試掘調査)		式		1		調査業務 (試掘調査)	式	1	
詳細設計業務		式		1		詳細設計業務	式	1	
調整マネジメント業務 (設計段階)		式		1		調整マネジメント業務 (設計段階)	式	1	
調整マネジメント業務 (工事段階)		式		1		調整マネジメント (工事段階)	式	1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	C・C・B O X工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
工事監理業務		式		1		工事監理業務	式	1	
家屋調査業務		式		1		家屋調査業務	式	1	
維持管理業務		式		1		維持管理業務	式	1	
現場環境改善費（率計上）		式		1		市街地補正=市街地			
共通仮設費（率計上）		式		1		施工地域補正=市街地（D I D補正）（1）－1；除雪工補正=補正無；ICT施工補正=しない；週休2日の補正=週休2日（閉所）完全週休2日（土日）			
純工事費		式		1					
現場管理費		式		1		施工地域補正=市街地（D I D補正）（1）－1；緊急工事補正=しない；砂防・地滑り工事補正=しない；ICT施工補正=しない；週休2日の補正=週休2日（閉所）完全週休2日（土日）			
工事原価		式		1					
一般管理費等		式		1					
工事価格		式		1					

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業					(当初)	工種区分	C・C・BOX工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項				
						名称	単位	数量		
消費税相当額		式		1						
工事費計		式		1		建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用等）が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。				

見積参考資料（管理費区分一覧表）

凡 例	管理費区分1 共通仮設費のみ非対象	管理費区分2 工場管理費・一般管理費の対象	管理費区分5 一般管理費等対象	管理費区分7 間接労務費対象労務費				
	管理費区分9 率計算の非対象	管理費区分T 処分費等の対象にする						
		(当 初)			事業区分	○ : 該当する管理費区分が含まれている		
					工事区分	共同溝・電線共同溝		
		細別名称	規格	単位	数量	管理費区分 1 管理費区分 T	管理費区分 2	管理費区分 5
殻処分		アスファルト殻		m3	117	○		
残土等処分				m3	1,530	○		
殻処分				m3	720	○		
電気設備				式	1			○
殻処分		コンクリート殻(無筋)		m3	58	○		
殻処分		アスファルト殻		m3	144	○		
道路施設基本データ作成費				式	1			○

見積参考資料（管理費区分一覧表）

凡 例	管理費区分1 共通仮設費のみ非対象 管理費区分9 率計算の非対象	管理費区分2 工場管理費・一般管理費の対象 管理費区分T 処分費等の対象にする	管理費区分5 一般管理費等対象		管理費区分7 間接労務費対象労務費
	○：該当する管理費区分が含まれている				
工事名		国道31号坂電線共同溝PFI事業		(当 初)	事業区分 工事区分
細別名称		規格	単位	数量	共通仮設費 共通仮設費
道路工事完成図等の作成費			式	1	
調査業務（地質調査）			式	1	
調査業務（試掘調査）			式	1	
詳細設計業務			式	1	
調整マネジメント業務（設計段階）			式	1	
調整マネジメント業務（工事段階）			式	1	
工事監理業務			式	1	

見積参考資料（管理費区分一覧表）

凡 例	管理費区分1 共通仮設費のみ非対象 管理費区分9 率計算の非対象		管理費区分2 工場管理費・一般管理費の対象 管理費区分T 処分費等の対象にする		管理費区分5 一般管理費等対象		管理費区分7 間接労務費対象労務費				
						○：該当する管理費区分が含まれている					
工事名	(当 初)					事業区分	共通仮設費				
						工事区分	共通仮設費				
細別名称	規格	単位	数量	管理費区分 1 管理費区分 T	管理費区分 2	管理費区分 5	管理費区分 7	管理費区分 9			
家屋調査業務		式	1						○		
維持管理業務		式	1						○		

数量総括表

工種	種別	細別	規格	単位									備考
					下り線	上り線	横断部	引込管	連系管路	道路土工	排水構造物	照明信号配管	
電線共同溝													
	舗装版撤去工												※舗装版撤去工で計上
	舗装版破碎工	AS舗装版切断 t = 0.04	m	666.5	488.5	47.0	128.8	92.2					1,423.0
		AS舗装版切断 t = 0.18	m	373.4	200.7	113.6		333.4					1,021.1
		AS舗装版破碎 t = 0.04	m2	364.0	316.7	23.7	31.6	39.8					775.8
		AS舗装版破碎 t = 0.18	m3	175.1	117.2	47.0		137.8					477.1
		AS殻処分 (2.20t/m3)	m2	14.6	12.7	0.9	1.3	1.7					31.2
		AS殻処分 (2.35t/m3)	m3	31.5	21.1	8.5		24.9					86.0
開削土工													※開削土工で計上
	掘削工	開削掘削	管路部	m3	513.0	428.4	67.6	10.8	137.7				1,157.5
	掘削工	開削掘削	特殊部	m3	208.5	229.2							437.7
		合計	m3	721.5	657.6	67.6	10.8	137.7					1,595.2
	埋戻し工	埋戻し	埋戻し・締固め 砂質土(流用土)	m3	212.9	210.1	28.0	1.6	9.0				461.6
		埋戻し	埋戻し・締固め 砂	m3	202.8	174.2	12.3	4.0	46.9				440.2
	基礎工	敷砂		m3	21.9	16.0	3.5	1.6	9.0				52.0
	残土処理工	残土処理	砂質土	m3	484.9	424.2	36.5	9.0	127.7	288.0	125.2	31.4	1,526.9

数量総括表

工種	種別	細別	規格	単位									備考
					下り線	上り線	横断部	引込管	連系管路	道路土工	排水構造物	照明信号配管	
舗装工													
		車道舗装(A)											
		下層路盤	車道 再生クラッシャーラン RC-40 t=0.20	m2	175.1	116.6	47.0		137.8		261.9	17.6	756.0
		上層路盤	車道 再生粒度調整碎石 RM-40 t=0.15	m2	175.1	116.6	47.0		137.8		261.9	17.6	756.0
		上層路盤	車道 再生As安定処理 t=0.08	m2	175.1	116.6	47.0		137.8		261.9	17.6	756.0
		基層	車道 再生粗粒度As t=0.05	m2	175.1	116.6	47.0		137.8		261.9	17.6	756.0
		表層	車道 再生粗粒度As t=0.05	m2	175.1	116.6	47.0		137.8		261.9	17.6	756.0
		歩道舗装											
		下層路盤	歩道 再生クラッシャーラン RC-30 t=0.10	m2	354.8	304.1	23.7	31.6	39.8		311.3	34.5	1,099.8
		表層	歩道 再生粗粒度As t=0.04	m2	354.8	304.1	23.7	31.6	39.8		311.3	34.5	1,099.8
防護柵工													
	防護柵工	転落防止柵	P種 縦格子 H=1.1m 土中建込 支柱間隔3m ダークブラウン	m	6.0	18.0							24.0

数量総括表

工種	種別	細別	規格	単位									備考	
					下り線	上り線	横断部	引込管	連系管路	道路土工	排水構造物	照明信号配管		
仮設工														
	土留・仮締切工													※仮設工で計上
		軽量鋼矢板	L=2.0m 1500<H≤1800	m	33.0	84.0								117.0 H=2.0m
		軽量鋼矢板	L=2.5m 1800<H≤2000	m	39.6									39.6 H=2.5m
		軽量鋼矢板	L=2.5m 2000<H≤2300	m		24.0								24.0 H=2.5m
		軽量鋼矢板	L=3.0m 2300<H≤2800	m		24.0								24.0 H=3.0m
	仮舗装工	仮舗装(A)												
		基層	車道 再生粗粒度As t=0.05	m2	175.1	116.6	47.0		137.8		261.9	17.6	756.0	
		表層	車道 再生粗粒度As t=0.05	m2	175.1	116.6	47.0		137.8		261.9	17.6	756.0	
		仮舗装(B)												
		下層路盤	歩道 再生クラッシャーランRC-30 t=0.10	m2	354.8	304.1	23.7	31.6	39.8		311.3	34.5	1,099.8	
		表層	歩道 再生粗粒度As t=0.04	m2	354.8	304.1	23.7	31.6	39.8		311.3	34.5	1,099.8	

数量総括表

工種	種別	細別	規格	単位									備考
					下り線	上り線	横断部	引込管	連系管路	道路土工	排水構造物	照明信号配管	
電線共同溝工(管路部)													
	管路工(管路部)	管路	埋設 角型FEP管 φ 150	m	307.8	688.6	62.0		346.3				1,404.7
		管路	埋設 角型FEP管 φ 130	m	126.0		31.0		48.5				205.5
		管路	埋設 角型FEP管 φ 100	m	1,186.2	549.9	31.0		208.3				1,975.4
		管路	埋設 角型FEP管 φ 75	m		262.2			173.9				436.1
		管路	埋設 PV直管 φ 75	m	505.4	347.6	18.0	34.9	40.3				946.2
		管路	埋設 PV直管 φ 50	m	252.7	338.6	117.0		1,080.5				1,788.8
		管路	埋設 VP直管 φ 150・共用FA管	m	246.7	164.8							411.5
		管路	埋設 VP直管 φ 250・ボディ管	m	97.2	164.8							262.0 KL1, KR1～KR3
		管路	埋設 VP直管 φ 250・ボディ管	m	149.5								149.5 KL2～KL4
			合計	m	246.7	164.8							411.5
			SU管(さや管) φ 50	m	1,976.3	1,537.2							3,513.5
			SU管(さや管) φ 30	m									
		管路	埋設 PV曲管10R φ 75	m	218.0	178.0	12.0		5.6				413.6
		管路	埋設 PV曲管10R φ 50	m	109.0	178.0	36.0		33.6				356.6
		管路	埋設 VP曲管10R φ 150・共用FA管	m	109.0	89.0							198.0
		管路	埋設 VP曲管10R φ 250・ボディ管	m	46.0	89.0							135.0 KL1, KR1～KR3
		管路	埋設 VP曲管10R φ 250・ボディ管	m	63.0								63.0 KL2～KL4
			合計	m	109.0	89.0							198.0
			SU管(さや管) φ 50	m	855.0	801.0							1,656.0
			SU管(さや管) φ 30	m									
		管路	埋設 PV曲管6R φ 75	m	20.0	8.0	32.0		7.8				67.8
		管路	埋設 PV曲管6R φ 50	m	10.0	8.0	124.0		126.0				268.0
		管路	埋設 VP曲管5R φ 150・共用FA管	m	10.0	4.0							14.0

数量総括表

工種	種別	細別	規格	単位									備考	
					下り線	上り線	横断部	引込管	連系管路	道路土工	排水構造物	照明信号配管		
	管路	埋設 VP曲管5R φ 250・ボデイ管	m	10.0	4.0								14.0	KL1, KR1~KR3
		SU管(さや管) φ 50	m	90.0	36.0								126.0	
		SU管(さや管) φ 30	m											
	管路	埋設 FEP管 φ 65	m		12.0		29.5						41.5	
	管枕	PV管用 φ 75~130P	個	890.0	656.0	78.0	14.0	32.0					1,670.0	※付帯設備工で計上
	管枕	PV管用 φ 50~95P	個	224.0	487.0	305.0		688.0					1,704.0	※付帯設備工で計上
	管枕	VP管用 φ 150~220P	個	222.0	162.0								384.0	※付帯設備工で計上
	管枕	VP管用 φ 250~325P	個	442.0	323.0								765.0	※付帯設備工で計上
	中間継手	角型FEP管 φ 150	個	4.0	8.0	2.0							14.0	
	中間継手	角型FEP管 φ 130	個	1.0		1.0							2.0	
	中間継手	角型FEP管 φ 100	個	14.0	11.0	1.0							26.0	
	中間継手	角型FEP管 φ 75	個		5.0								5.0	
	中間継手	VP管 φ 150	個	7.0	6.0								13.0	
	中間継手	PV管 φ 75	個	10.0	6.0	2.0							18.0	
	中間継手	PV管 φ 50	個	5.0	9.0	11.0							25.0	
	スライド管	スライド管 VP φ 250	個	7.0	6.0								13.0	
	ロータス管	ボルト固定式 VP φ 250	個	14.0	12.0								26.0	起点側13, 終点側13
	ベルマウス	角型FEP管 φ 150用	個	8.0	16.0	4.0							28.0	
	ベルマウス	角型FEP管 φ 130用	個	2.0		2.0							4.0	
	ベルマウス	角型FEP管 φ 100用	個	28.0	22.0	2.0							52.0	
	ベルマウス	角型FEP管 φ 75用	個		10.0								10.0	
	ベルマウス	VP管 φ 250用	個	14.0	12.0								26.0	
	ベルマウス	VP管 φ 150用	個	14.0	12.0								26.0	
	ベルマウス	PV管 φ 75用	個	20.0	12.0	4.0							36.0	
	ベルマウス	PV管 φ 50用	個	10.0	18.0	22.0							50.0	

数量総括表

工種	種別	細別	規格	単位									備考	
					下り線	上り線	横断部	引込管	連系管路	道路土工	排水構造物	照明信号配管		
		ベルマウス	FEP管 φ65用	個		2.0							2.0	
		埋設標識シート	300mmx2倍	m	755.3	543.0	113.5	64.4	334.5				1,810.7	
電線共同溝工(特殊部)														
	特殊部	接続部	B1, 350×L4, 500×H1, 800	基	4.0	1.0							5.0	構造図(1) ML1～ML4、MR3
		鉄蓋	960×500用 T-25	枚	4.0	1.0							5.0	
			均しコンクリート $\sigma_{ck}=18N/mm^2$	m3	7.3	1.8							9.1	
			基礎材 RC-40 t=100	m2	24.3	6.1							30.4	
	特殊部	接続部	B1, 350×L4, 500×H1, 800	基		1.0							1.0	構造図(3) MR1
		鉄蓋	φ850用 T-25	枚		1.0							1.0	
			均しコンクリート $\sigma_{ck}=18N/mm^2$	m3		1.8							1.8	
			基礎材 RC-40 t=100	m2		6.1							6.1	
	特殊部	接続部	B1, 350/2, 150×L4, 500×H1, 800	基		1.0							1.0	構造図(2) MR2
		鉄蓋	960×500用 T-25	枚		1.0							1.0	
			均しコンクリート $\sigma_{ck}=18N/mm^2$	m3		2.2							2.2	
			基礎材 RC-40 t=100	m2		7.3							7.3	
	特殊部	電力地上機器部	B1, 200×L1, 800×H1, 500	基	1.0	2.0							3.0	構造図(4) DL1、DR1、DR2
		鉄蓋	960×500用 T-25	枚	1.0	2.0							3.0	
			均しコンクリート $\sigma_{ck}=18N/mm^2$	m3	0.5	1.1							1.6	
			基礎材 RC-40 t=100	m2	2.2	4.3							6.5	

数量総括表

工種	種別	細別	規格	単位									備考	
					下り線	上り線	横断部	引込管	連系管路	道路土工	排水構造物	照明信号配管		
特殊部	電力地上機器部	B1, 350×L4, 500×H1, 500	基			1.0								構造図(6) 1.0 DR3
	鉄蓋	960×500用 T-25	枚			1.0								1.0
		均しコンクリート $\sigma_{ck}=18N/mm^2$	m3			1.8								1.8
		基礎材 RC-40 t=100	m2			6.1								6.1
特殊部	通信基点桿	B1, 000×L2, 200×H1, 700	基	2.0	1.0									構造図(7) 3.0 TL1、TL3、TR2
	鉄蓋	960×500用 T-25	枚	2.0	1.0									3.0
		均しコンクリート $\sigma_{ck}=18N/mm^2$	m3	1.1	0.6									1.7
		基礎材 RC-40 t=100	m2	4.4	2.2									6.6
特殊部	通信接続桿	B500×L2, 000×H1, 050	基	2.0	3.0									構造図(8) 5.0 TL2、TL4、TR1、TR3、TR4
	鉄蓋	500×2000 T-25	枚	2.0	3.0									5.0
		敷モルタル 1:3	m3	0.1	0.1									0.2
		基礎材 RC-40 t=100	m2	3.5	5.3									8.8
特殊部	分岐桿	B600×L1, 200×H415	基	2.0										構造図(9) 2.0 BL1、BL2
	鉄蓋	600×1200 T-25	枚	2.0										2.0
		敷モルタル 1:3	m3	0.1										0.1
		基礎材 RC-40 t=100	m2	2.8										2.8
ちゅビCOM機器部	コンクリート	$\sigma_{ck}=18N/mm^2$	m3		0.2									0.2
	型枠		m2		1.2									1.2
	基礎材	基礎材 RC-40 t=100	m2		0.6									0.6

見 積 参 考 資 料

工 事 名 国道 3 1 号坂電線共同溝 P F I 事業(電気工事分)

この「見積参考資料」は入札参加者の適切かつ迅速な見積に資するための資料であり、契約書第1条にいう設計図書ではない。従って「見積参考資料」は請負契約上の拘束力を生じるものではなく、受注者は、施工条件、地質条件等を充分考慮して、仮設、施工方法、安全対策等、工事目的物を完成するための一切の手段について受注者の責任において定めるものとする。

なお、この「見積参考資料」の有効期間は、この工事の入札日までとする。

国土交通省 中国地方整備局
広島国道事務所 管理第二課

見積参考資料（積算条件）

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業(電気工事分)		
間接費名称	補正項目	積算条件	
共通仮設費（率計上）	施工地域補正 除雪工事補正	市街地（DID補正）（1）－1 補正無	
現場環境改善費（率計上）	市街地補正	市街地	
現場管理費	施工地域補正 施工時期補正 熱中症補正 緊急工事補正 砂防・地滑り補正	市街地（DID補正）（1）－1 補正しない 補正しない 補正しない 補正しない	
一般管理費等	財団法人等による補正 前払金割合による補正 契約保証に係る補正	補正しない 35%を超えるもの・補正しない 発注者が金銭的保証を必要とする場合	
その他	ICT施工補正 週休2日の補正	補正しない 週休2日（閉所）完全週休2日（土日）	

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業(電気工事分)					(当初)	工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
電気設備		式			1					
道路付属施設工		式			1					
照明工(施工時間帯9:00~16:00)		式			1					
道路照明柱(L1)設置	多目的柱 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 H=10.3m KCE090-2C	基			1	道路照明灯建柱 施工区分=高さ:GL8~12m 重量:350kg超1,000kg以下; ; トラッククレーンの深夜割増の区分=割増なし; 多目的柱 段付テーパーポール 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 500kg以下 照明器具取付 作業種別=照明器具取付; 作業内容による補正=新設; ; 高所作業車の持込貸与の区分=持込; LED道路照明器具(建電協型) KCE090-2C(交差点用) LED道路照明器具(建電協型)用専用ケーブル 直線型ポール用	基 kg 台	1 497 1		
		基			1					

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
道路照明柱(R1)設置	多目的柱 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 H=10.3m KCE090-2C	基		1		道路照明灯建柱 施工区分=高さ:GL8~12m 重量:350kg超1,000kg以下; ; トラッククレーンの深夜割増の区分=割増なし; 多目的柱 段付テーパーポール 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 500kg以下 照明器具取付 作業種別=照明器具取付; 作業内容による補正=新設; ; 高所作業車の持込貸与の区分=持込; LED道路照明器具(建電協型) K C E 0 9 0 - 2 C (交差点用) LED道路照明器具(建電協型)用専用ケーブル 直線型ポール用	基 kg 台 台 本	1 497 1 1 1	
道路照明柱(R2)設置	多目的柱 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 H=10.3m KCE090-2C	基		1		道路照明灯建柱 施工区分=高さ:GL8~12m 重量:350kg超1,000kg以下; ; トラッククレーンの深夜割増の区分=割増なし; 多目的柱 段付テーパーポール 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 500kg以下 照明器具取付 作業種別=照明器具取付; 作業内容による補正=新設; ; 高所作業車の持込貸与の区分=持込; LED道路照明器具(建電協型) K C E 0 9 0 - 2 C (交差点用) LED道路照明器具(建電協型)用専用ケーブル 直線型ポール用	基 kg 台 台 本	1 364 1 1 1	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
道路照明柱(R3)設置	多目的柱 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 H=10.3m KCE09-2C	基		1		道路照明灯建柱 施工区分=高さ:GL8~12m 重量:350kg超1,000kg以下; ; トラッククレーンの深夜割増の区分=割増なし; 多目的柱 段付テーパーポール 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 500kg以下 照明器具取付 作業種別=照明器具取付; 作業内容による補正=新設; ; 高所作業車の持込貸与の区分=持込; LED道路照明器具(建電協型) K C E 0 9 0 - 2 C (交差点用) LED道路照明器具(建電協型)用専用ケーブル 直線型ポール用	基 kg 台 台 本	1 476 1 1 1	
道路照明器具設置	KCE090-2C	台		5		< 1 台当り > 照明器具取付 作業種別=照明器具取付; 作業内容による補正=新設; ; 高所作業車の持込貸与の区分=持込; LED道路照明器具(建電協型) K C E 0 9 0 - 2 C (交差点用) LED道路照明器具(建電協型)用専用ケーブル 直線型ポール用	台 台 本	1 1 1	
自動点滅器設置	照明柱L1用 200V 6A	個		1		自動点滅器取付(ポール取付) 作業種別=自動点滅器(ポール取付); 作業内容による補正=新設; 光電式自動点滅器 プラグイン式 200V 6A CVVケーブル(制御用絶縁電線) ケーブル規格=CVV 2.0 mm ² ; 心線数=3心;	個 個 m	1 1 1.2	

見積参考資料

工事名	(当 初)					工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素	規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
						名称	単位	数量	
自動点滅器設置	照明柱4K470L用 200V 6A	個		1		自動点滅器取付 (ポール取付) 作業種別=自動点滅器(ポール取付); 作業内容による補正=新設; 自動点滅器 (プラグ式) (本体のみ) 200V 6A 自動点滅器 (プラグ式受け台) (ソケットのみ) 6A 10A 共通 ステンレスバンド SFT-N109 CVVケーブル (制御用絶縁電線) ケーブル規格=CVV 2.0 mm ² ; 心線数=3心;	個	1	
自動点滅器設置	照明柱4K765L用 200V 6A	個		1		自動点滅器取付 (ポール取付) 作業種別=自動点滅器(ポール取付); 作業内容による補正=新設; 自動点滅器 (プラグ式) (本体のみ) 200V 6A 自動点滅器 (プラグ式受け台) (ソケットのみ) 6A 10A 共通 ステンレスバンド SFT-N109 CVVケーブル (制御用絶縁電線) ケーブル規格=CVV 2.0 mm ² ; 心線数=3心;	個	1	
ポール内ジョイントボックス	ELCB テストSW付(SBJ A-1020ET相当品)	個		5		< 1 個当り > ポール内ジョイントボックス ELCB テストSW付(SBJA-1020ET相当品)	個	1	
ポール内ジョイントボックス	ELCB 単独(SBJA-1020E相当品)	個		3		< 1 個当り > ポール内ジョイントボックス ELCB 単独(SBJA-1020E相当品)	個	1	
ポール内ジョイントボックス	ELCB 連接(SBJA-1020EC相当品)	個		1		ポール内ジョイントボックス ELCB 連接(SBJA-1020EC相当品)	個	1	
ポール内ジョイントユニット	MCCB 1灯・2灯 単独・連接	個		3		< 1 個当り > ポール内ジョイントユニット 1灯、2灯用単独連接	個	1	

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業(電気工事分)					(当初)	工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
管理銘板	ステンレス製 バンド付		枚		9		< 1 枚当たり > 管理銘板 ステンレス製 バンド付	枚	1	

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業(電気工事分)					(当初)	工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
配管配線工							露出配管 G22 電線管敷設 作業種別=厚鋼; 規格=22mm以下; 作業内容による補正=新設; 設置方法による補正=クリップ留め; 設置高さによる補正=2m未満; 配管加工が少ない場合の補正=補正なし; 厚鋼電線管 (G) 規格=呼び径 22; 付属品率(実数)=15 %; 露出配管 G36 電線管敷設 作業種別=厚鋼; 規格=36mm以下; 作業内容による補正=新設; 設置方法による補正=クリップ留め; 設置高さによる補正=2m未満; 配管加工が少ない場合の補正=補正なし; 厚鋼電線管 (G) 規格=呼び径 36; 付属品率(実数)=15 %; 露出配管 G54 電線管敷設 作業種別=厚鋼; 規格=54mm以下; 作業内容による補正=新設; 設置方法による補正=クリップ留め; 設置高さによる補正=2m未満; 配管加工が少ない場合の補正=補正なし; 厚鋼電線管 (G) 規格=呼び径 54; 付属品率(実数)=15 %; 露出配管 金属製可とう電線管 φ24 被覆付 金属製可とう電線管敷設 作業種別=24mm以下; 作業内容による補正=新設; 金属製可とう電線管 ビニル被覆 二種 24mm 電線管付属品 エントランスキャップ G22用 ユニバーサル LB形 G22用 金属製可とう電線管付属品 防水ユニオンボックスコ	m	4	

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業(電気工事分)					(当初)	工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
			式		1		ネクタ 厚鋼用 24mm 金属製可とう電線管付属品 防水ユニオンカップリング 厚鋼用 24mm 波付硬質電線管用付属品(FEP用) 異種管接続材料(A型) 50mm 波付硬質電線管用付属品(FEP用) 異種管接続材料(H型) 50mm 配管支持材 ステンレスバンド SFT-N109 管内配線 CV3.5mm ² -2C ケーブル及び電線配線 作業種別=管内配線; 規格=20mm以下; 作業内容による補正=新設; CVケーブル(600V架橋ポリケーブル) ケーブル規格=600V CV 3.5mm ² ; 心線数=2心;	個 個 組 組 個 m m	2 2 3 3 5 112 112	
照明撤去工(施工時間帯9:00~16:00)			式		1					
道路照明柱撤去	IS10.3B-C	基			1		道路照明灯撤去 作業区分=高さ:GL8~12m 重量:350kg以下; トックレンジの深夜割増の区分=割増なし;	基	1	
道路照明器具撤去(不使用)	KSH-2	台			6		< 1 台当たり> 照明器具取付 作業種別=照明器具取付; 作業内容による補正=撤去(不使用); 高所作業車の持込貸与の区分=持込;	台	1	
配管配線撤去工		式			1		管内配線撤去 CV3.5mm ² -2C ケーブル及び電線配線 作業種別=管内配線; 規格=20mm以下; 作業内容による補正=撤去(不使用);	m	156	
直接工事費		式			1					

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業(電気工事分)					(当初)	工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
共通仮設費			式		1					
共通仮設費			式		1					
現場環境改善費(率計上)			式		1		市街地補正=市街地			
共通仮設費(率計上)			式		1		施工地域補正=市街地(DID補正)(1)-1; 除雪工補正=補正無; ICT施工補正=しない; 週休2 日の補正=週休2日(閉所) 完全週休2日(土日)			
純工事費			式		1					
現場管理費			式		1		施工地域補正=市街地(DID補正)(1)-1; 緊急工事補正=しない; 砂防・地滑り工事補正=しな い; ICT施工補正=しない; 週休2日の補正=週休2 日(閉所) 完全週休2日(土日)			
工事原価			式		1					
一般管理費等			式		1					
工事価格			式		1					
消費税相当額			式		1					

見積参考資料

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業(電気工事分)					(当初)	工種区分	道路維持工事		
工事区分・工種・種別・細別・積算要素		規格	単位	数量(前回)	数量(今回)	数量の増減	参考事項			
							名称	単位	数量	
工事費計		式			1		建設技能労働者や交通誘導員等の現場労働者にかかる経費として、労務費のほか各種経費（法定福利費の事業者負担額、労務管理費、安全訓練等に要する費用等）が必要であり、本積算ではこれらを現場管理費等の一部として率計上している。			

見積参考資料（管理費区分一覧表）

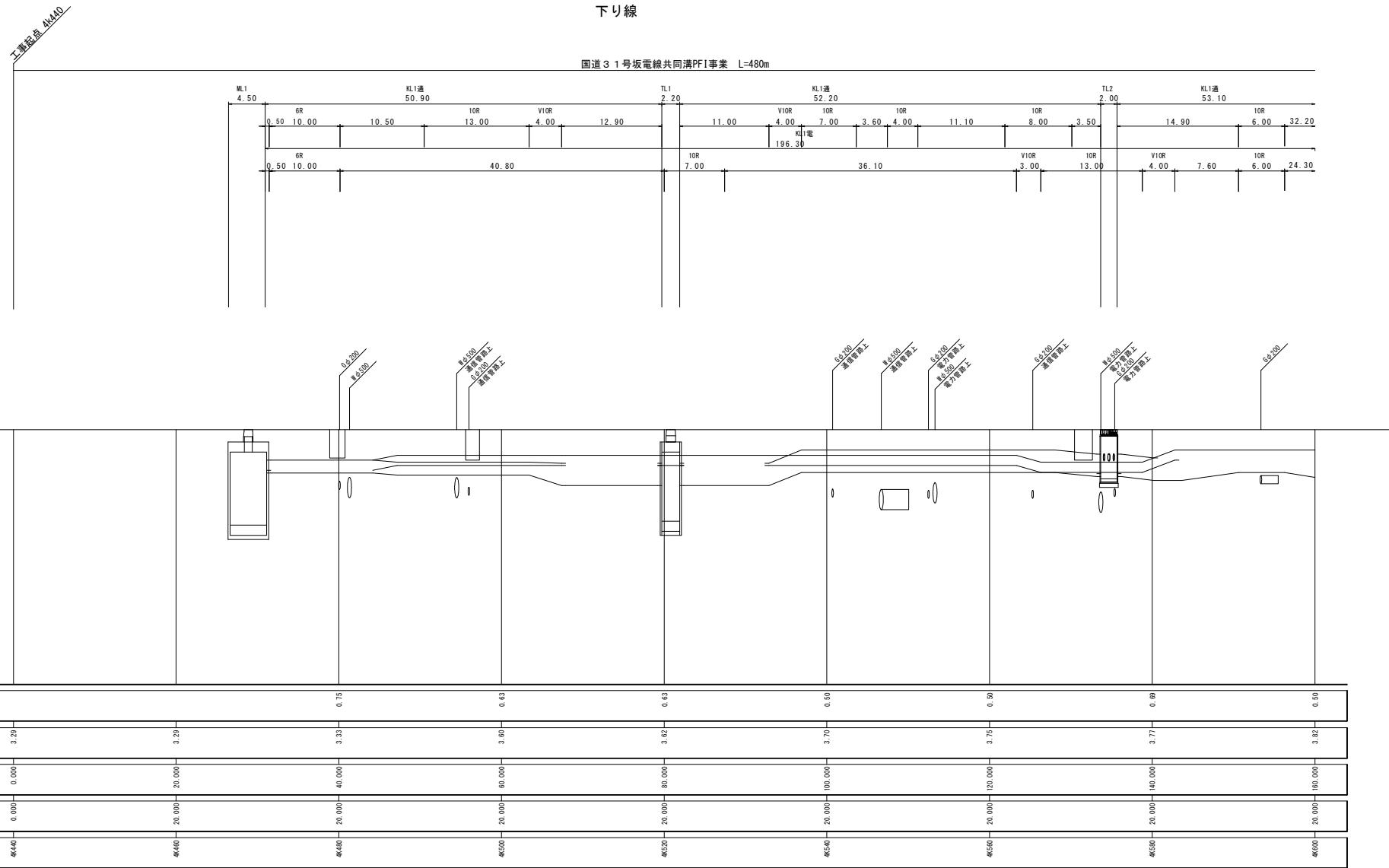
凡 例	管理費区分1 共通仮設費のみ非対象		管理費区分2 工場管理費・一般管理費の対象		管理費区分5 一般管理費等対象		管理費区分7 間接労務費対象労務費				
	管理費区分8 技術者間接費対象労務費		管理費区分9 率計算の非対象		管理費区分T 処分費等の対象にする						
工事名		(当初)				事業区分	○：該当する管理費区分が含まれている				
						工事区分					
細別名称		規格	単位	数量	管理費区分 1 管理費区分 9	管理費区分 2 管理費区分 T	管理費区分 5	管理費区分 7	管理費区分 8		
道路照明柱(L1)設置		多目的柱 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 H=10.3m KCE090-	基	1			○				
道路照明柱(R1)設置		多目的柱 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 H=10.3m KCE090-	基	1			○				
道路照明柱(R2)設置		多目的柱 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 H=10.3m KCE090-	基	1			○				
道路照明柱(R3)設置		多目的柱 溶融亜鉛メッキ後指定色塗装 H=10.3m KCE090-	基	1			○				

見積参考図面（積算用参考図）

縦断面図 (1)

下り線

国道31号坂電線共同溝PFI事業 L=480m



積算用参考図

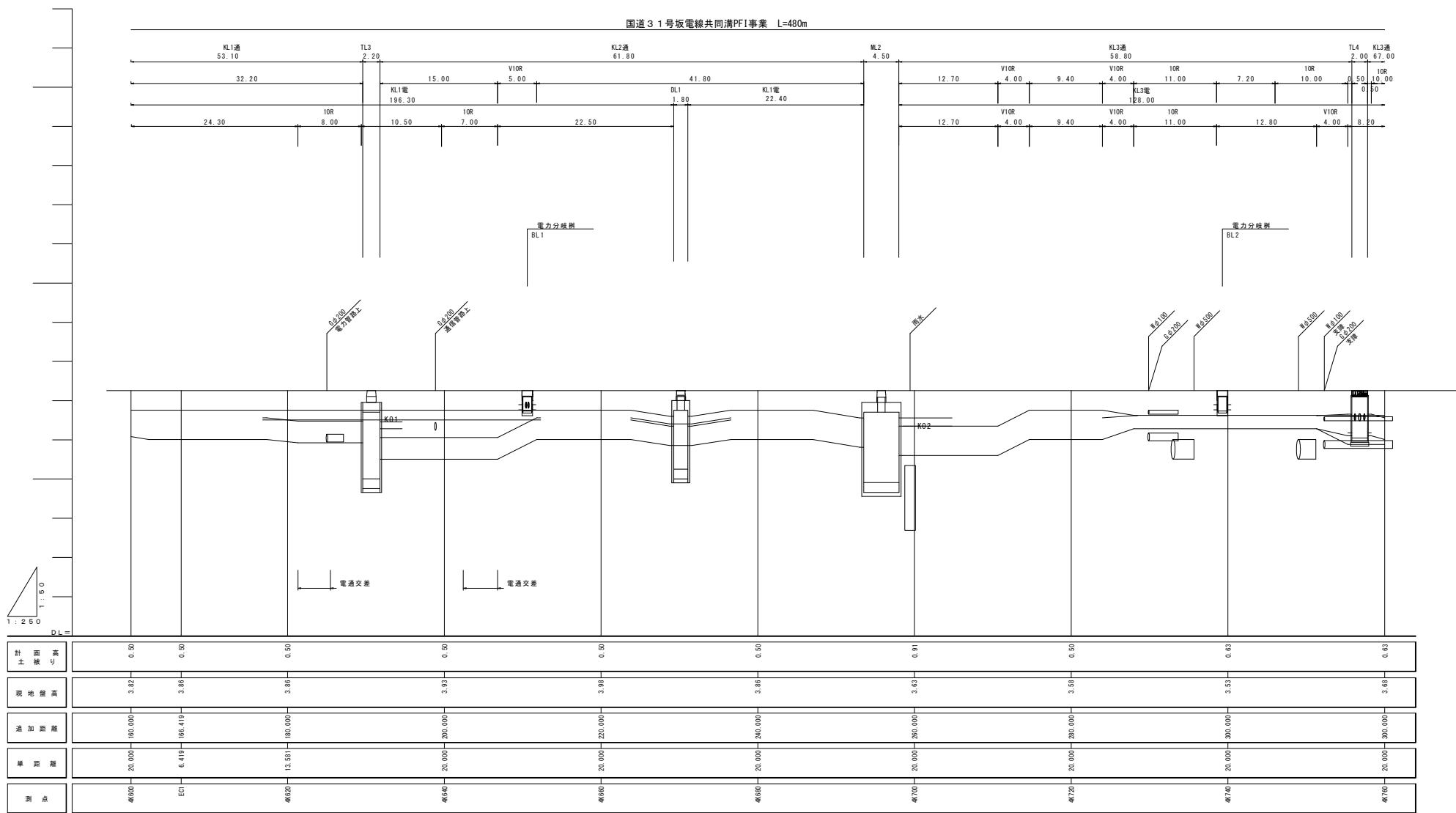
工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業		
図面名	縦断面図 (1)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50 H=1:250	図面番号	1 / 17
会社名			
事業者名	広島国道路務所		

縮小50%

縦断面図 (2)

下り線

国道31号坂電線共同溝PFI事業 L=480m



積算用参考図

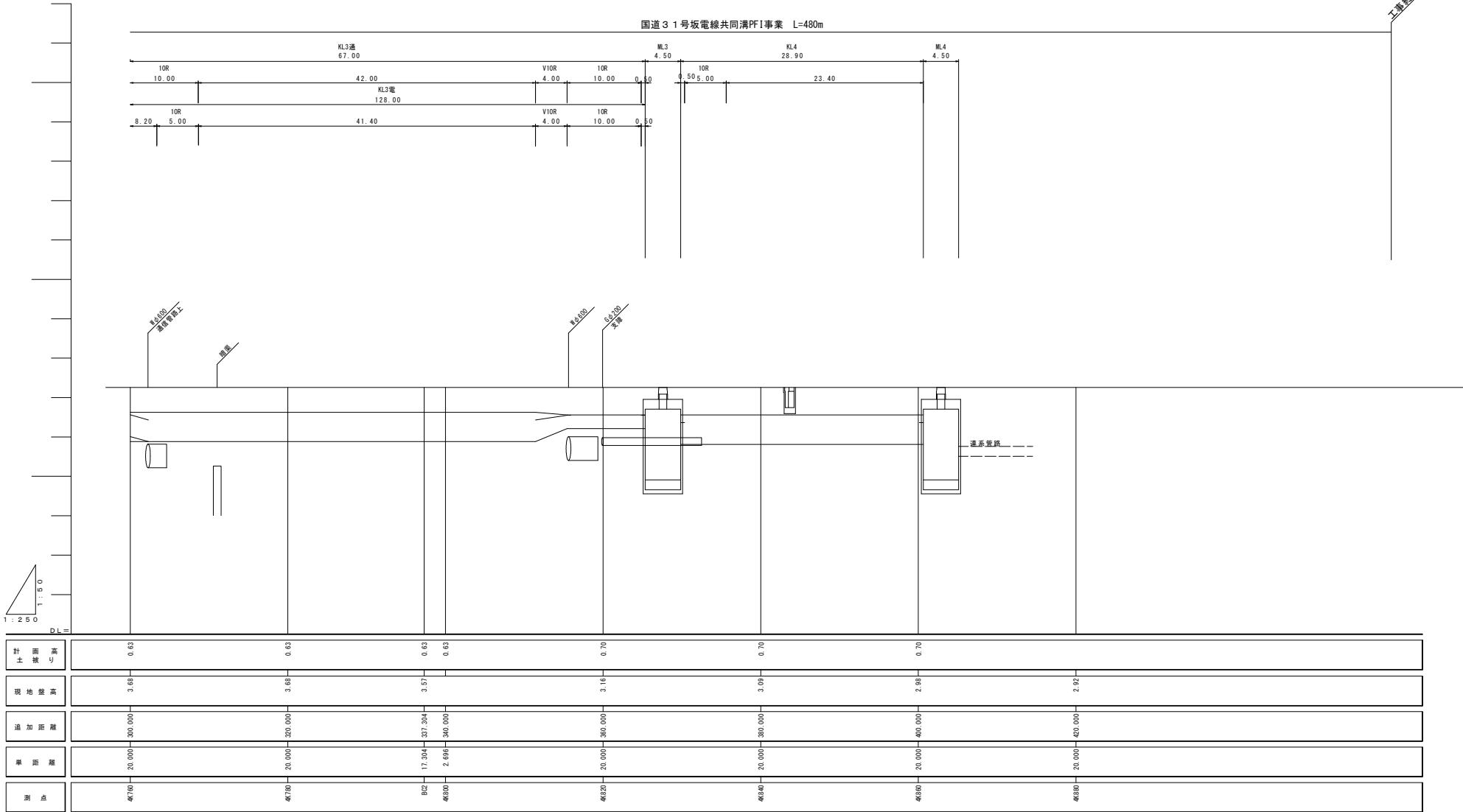
工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業		
図面名	縦断面図(2)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50	H=1:250	図面番号 2 / 17
会社名			
事業者名	広島国道路務所		

縦断面図 (3)

下り線

国道31号坂電線共同溝PFI事業 L=480m

事終点
4920

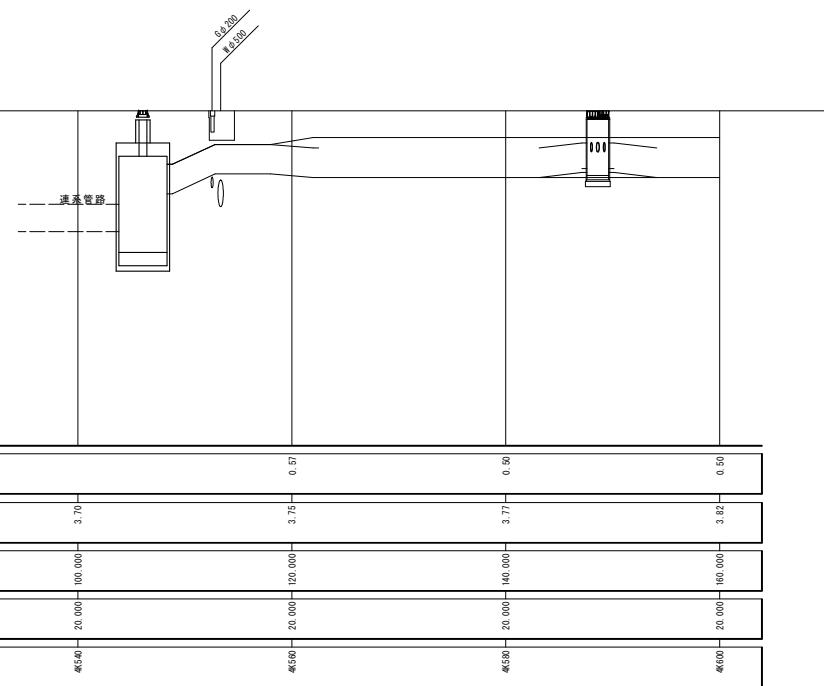
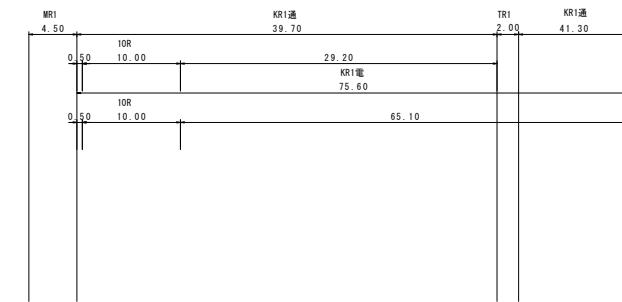


精算用参考図	
工事名	国道31号板電線共同開PFI事業
因面名	縦断面図(3)
作成年月日	
縮尺	V=1:50 H=1:250
会社名	
事業者名	広島国道路事務所

縦断面図 (4)

上り線

国道31号坂電線共同溝PFI事業 L=480m

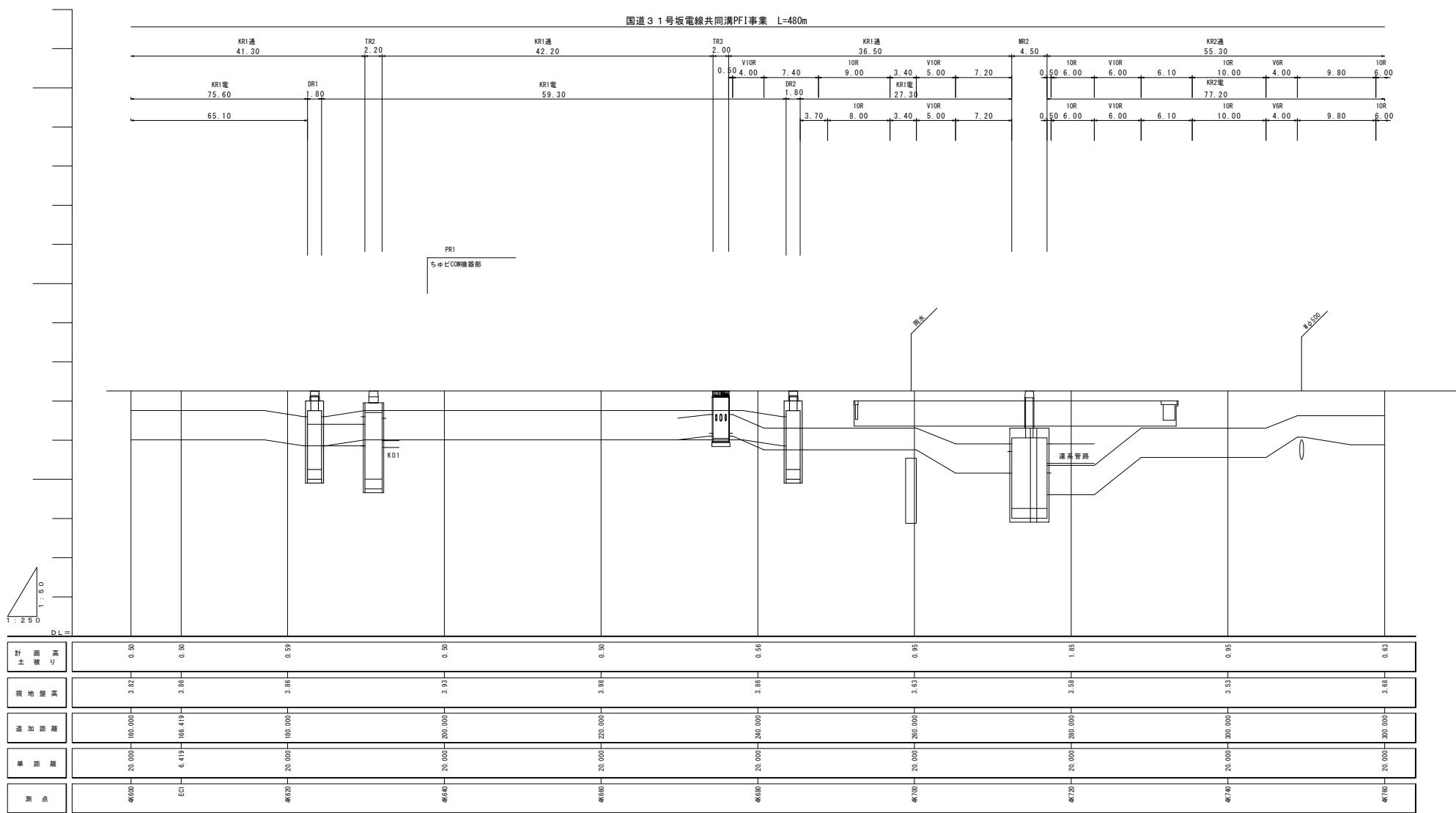


積算用参考図	
工事名	国道31号板電線共同溝K1事業
図面名	継断面図(4)
作成年月日	
縮尺	V=1: 50 H=1: 250
会社名	
事業者名	広島国道路務所

縦断面図 (5)

上り線

国道3 1号坂電線共同溝PFI事業 L=480m



積算用参考図

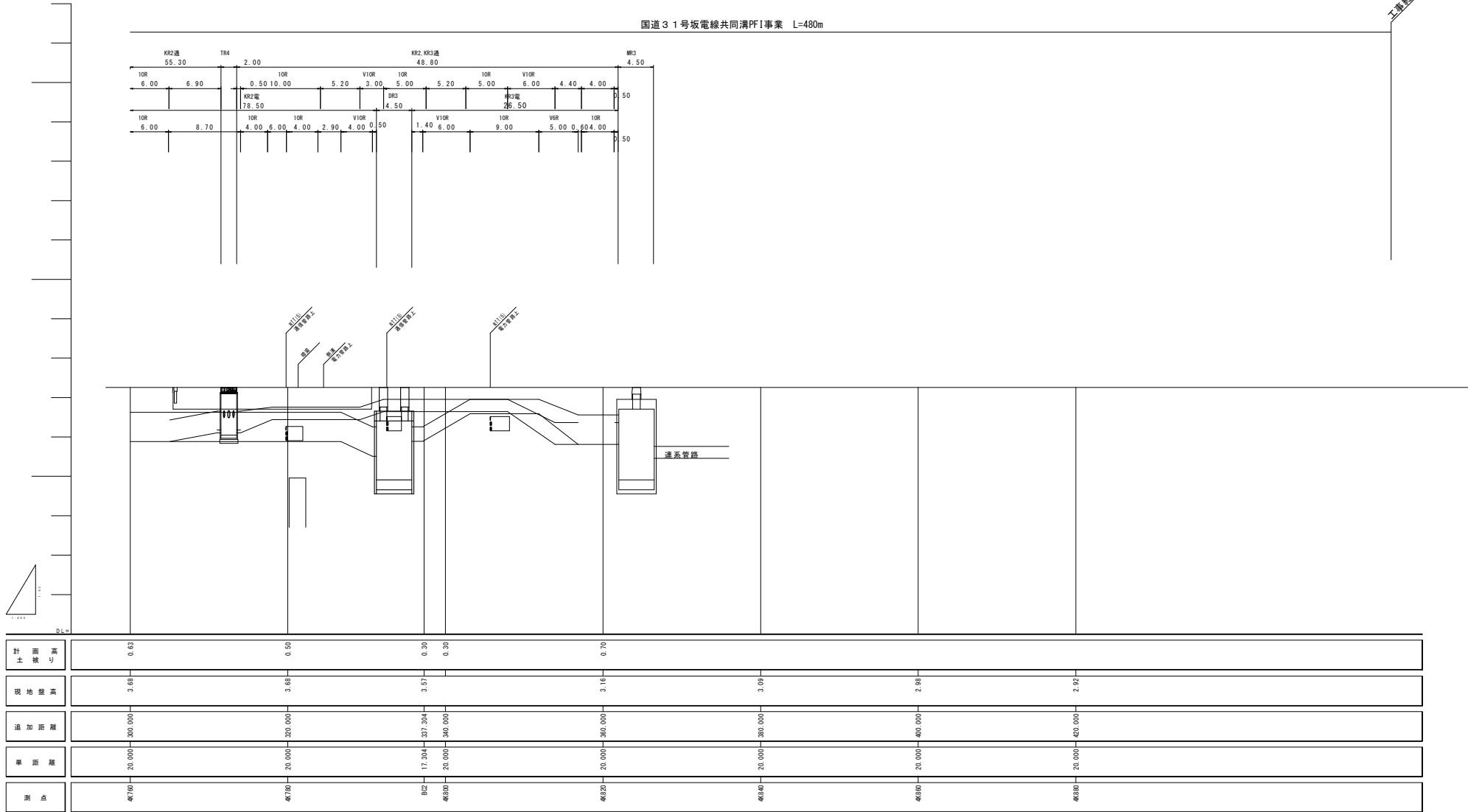
工事名	国道3 1号坂電線共同溝PFI事業		
図面名	縦断面図 (5)		
作成年月日			
縮尺	V=1: 50 H=1: 250	図面番号	5 / 17
会社名			
事業者名	広島国道路務所		

縦断面図 (6)

上り線

国道3 1号坂電線共同溝PFI事業 L=480m

上り線高 4920

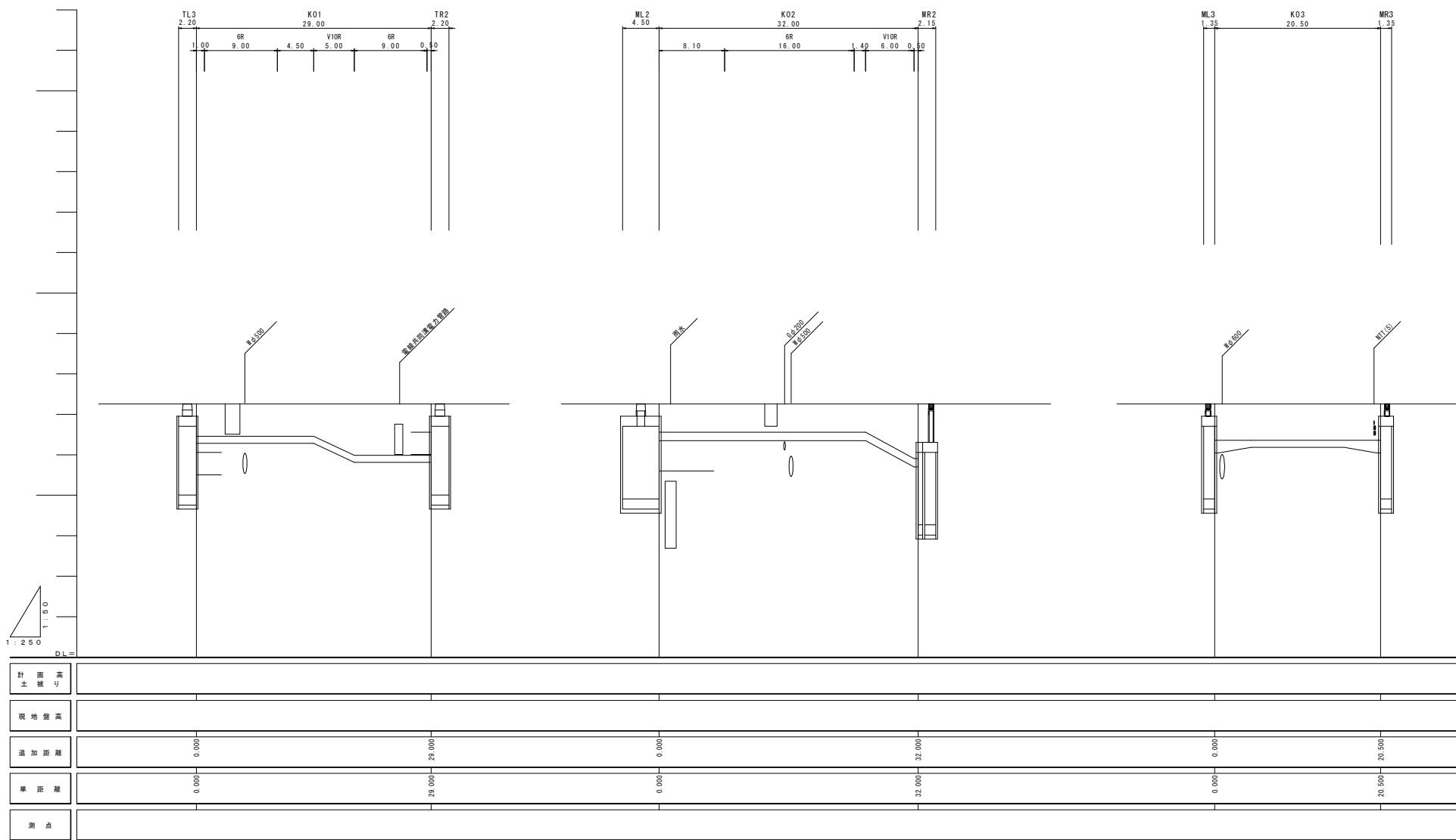


積算用参考図

工事名	国道3 1号坂電線共同溝PFI事業		
図面名	縦断面図 (6)		
作成年月日			
縮尺	V=1 : 50	H=1 : 250	図面番号 6 / 17
会社名			
事業者名	広島国道路務所		

縦断面図 (7)

横断部



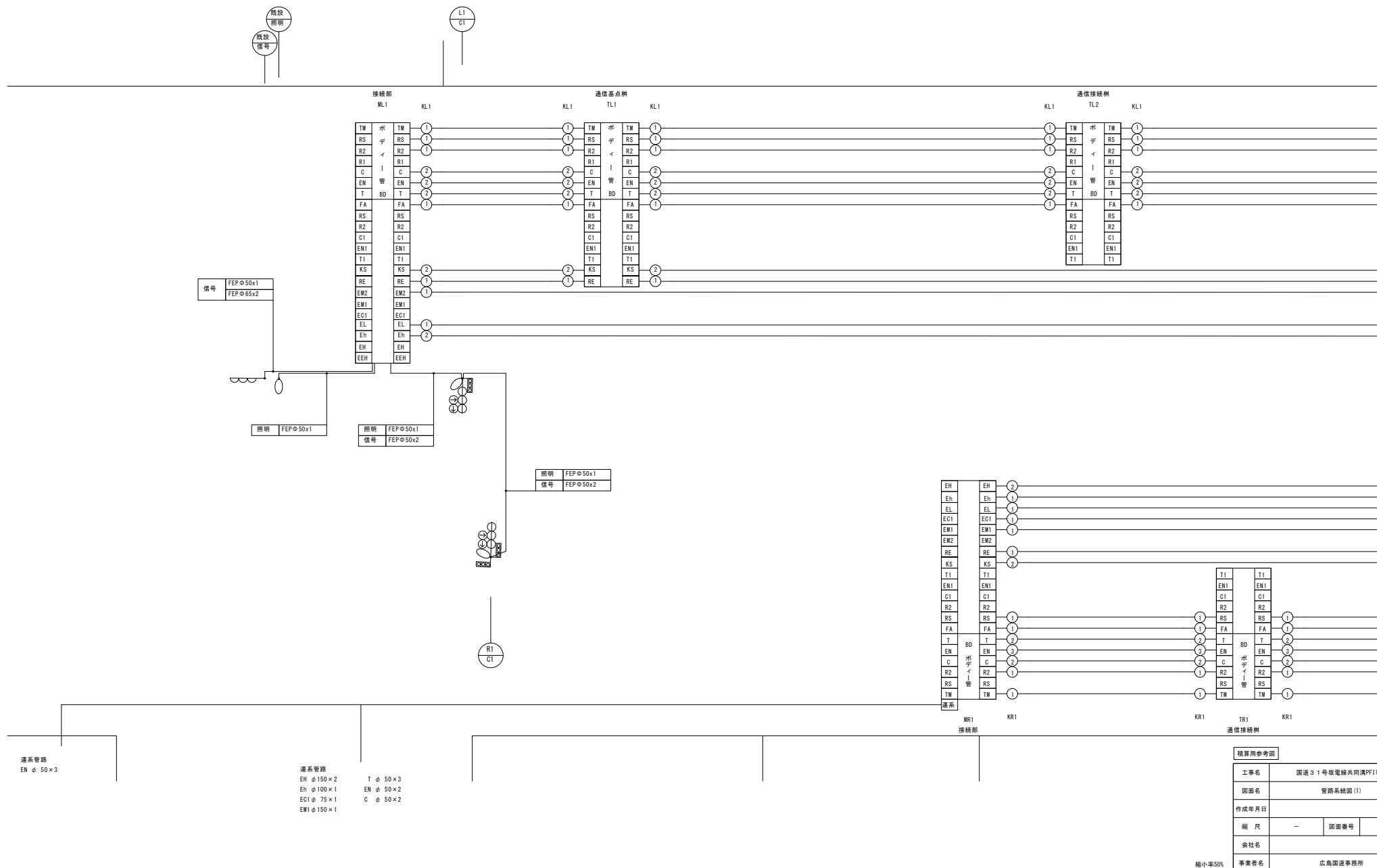
積算用参考図

工事名	国道31号坂電線共同渋PFI事業		
図面名	縦断面図(7)		
作成年月日			
縮尺	V=1:50 H=1:250	図面番号	7 / 17
会社名			
事業者名	広島国道路務所		

凡例

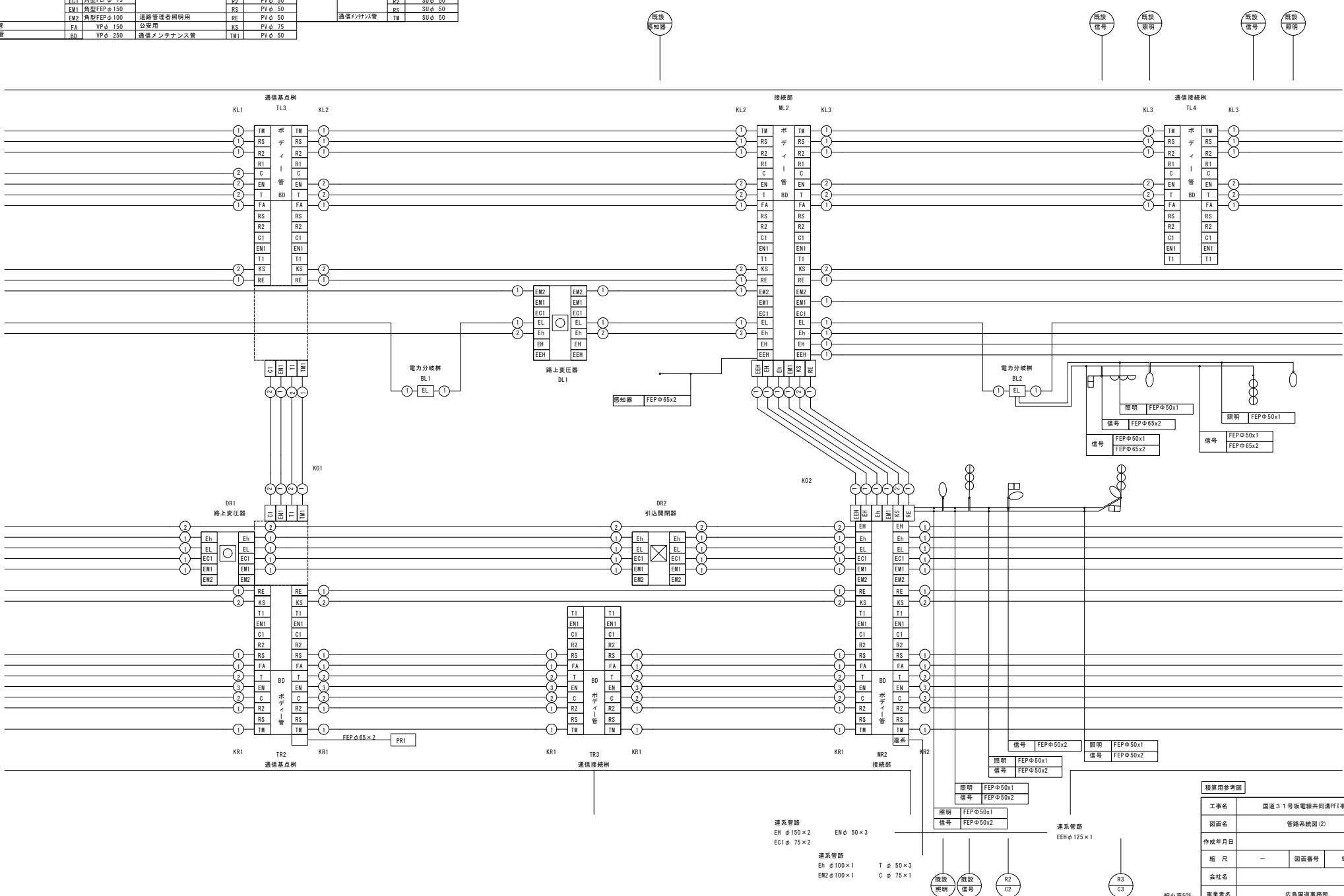
事業者	記号	管種別	事業者	記号	管種別
中国電力	EEH	角型FEPφ120	NTT	T1	PVφ 50
	EH	角型FEPφ150	エヌコム	EN1	PVφ 50
	Eh	角型FEPφ100	CJ	PVφ 50	
	EL	角型FEPφ100	R1	PVφ 50	
	EC1	角型FEPφ 75	D2	PVφ 50	
	EM1	角型FEPφ150	RS	PVφ 50	
	EM2	角型FEPφ100	RE	PVφ 50	
共用FA管	FA	VPφ 150	公用用	KS	PVφ 75
ボディ管	BD	VPφ 250	通信・メンテナンス管	TM1	PVφ 50

管路系統図(1)



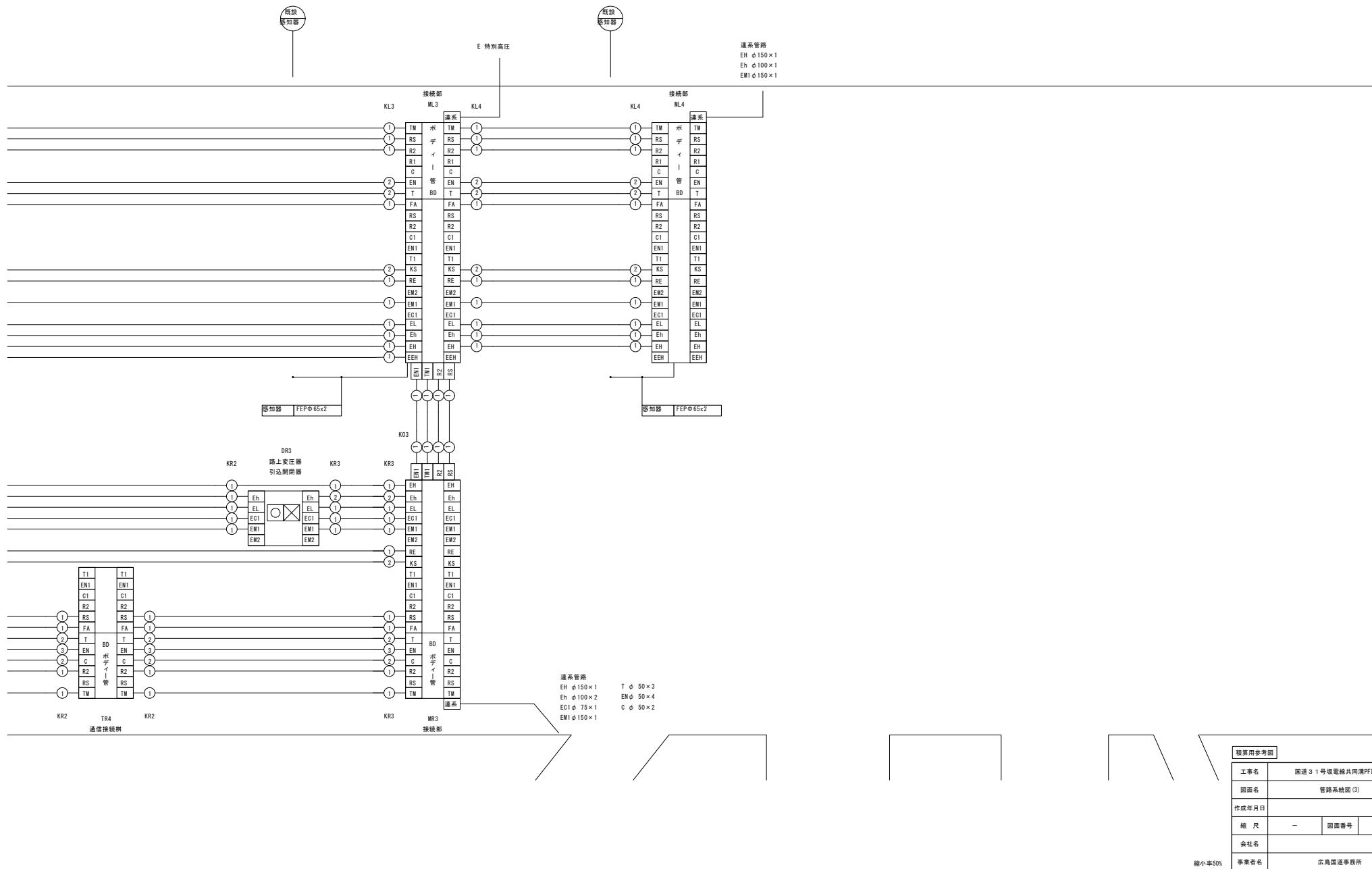
事業者	記号	管種別	事業者	記号	管種別
中国電力	EEH	角型FEPΦ120	NTT	T1	PVΦ50
	EH	角型FEPΦ150	エヌ・コム	EN1	PVΦ50
	Eh	角型FEPΦ100	ちゅビCOM	C1	PVΦ50
	EL	角型FEPΦ100	道路管理者	R1	PVΦ50
	EC1	角型FEPΦΦ75		R2	SUΦ50
	EM1	角型FEPΦ150		RS	SUΦ50
	EM2	角型FEPΦ100	通信マッチング管	TM	SUΦ50
共用FA管	FA	VPΦ150	公用用	K5	PVΦ75
ボディ管	BD	VPΦ250	通信マッチング管	TM1	PVΦ50

管路系統図(2)

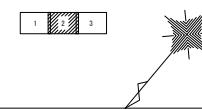


事業者	記号	管種別	事業者	記号	管種別	事業者	記号	管種別
中国電力	EEH	角型FEPφ120	NTT	T1	PVφ 50	エディー管内	T	SUφ 50
	EH	角型FEPφ150	エネコム	EN1	PVφ 50	エヌコム	EN	SUφ 50
	Eh	角型FEPφ100	ちゅビCOM	C1	PVφ 50	ちゅビCOM	C	SUφ 50
	EL	角型FEPφ100	道路管理者	R1	PVφ 50	道路管理者	R1	SUφ 50
	EC1	角型FEPφ 75		D2	PVφ 50		R2	SUφ 50
	EM1	角型FEPφ150		RS	PVφ 50		RS	SUφ 50
	EM2	角型FEPφ100	道路管理者照明用	RE	PVφ 50	通信メッシュ管	TW1	SUφ 50
共用FA管	FA	VPφ 150	公用用	K5	PVφ 75			
ボディ管	BD	VPφ 250	通信メンテナンス管	TW1	PVφ 50			

管路系統図(3)

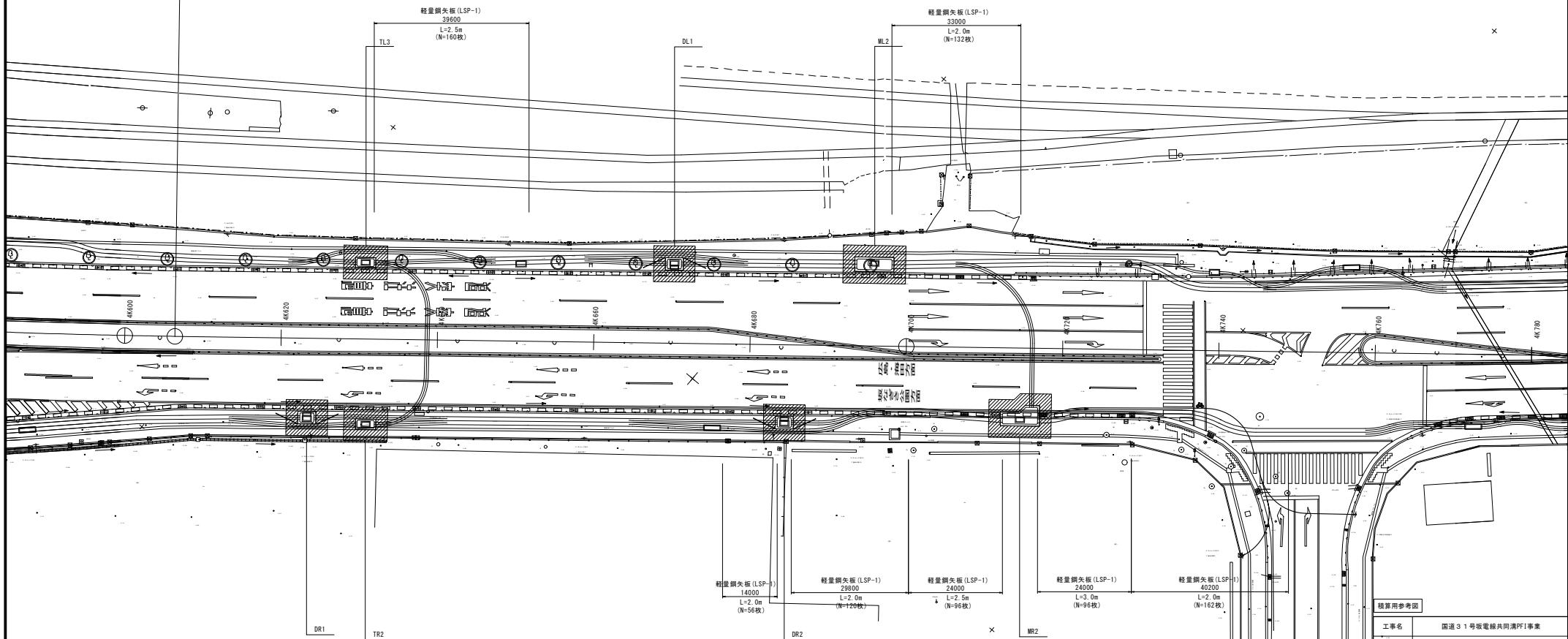


仮設平面図(2)



国道31号坂電線共同溝PF1事業 L=480m

E: 1-0 40' 66.419
N: 190' 885

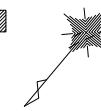


積算用参考図			
工事名	国道31号坂電線共同溝PF1事業		
図面名	仮設平面図(2)		
作成年月日			
縮尺	1:250	図面番号	12 / 17
会社名			
事業者名	広島国道事務所		

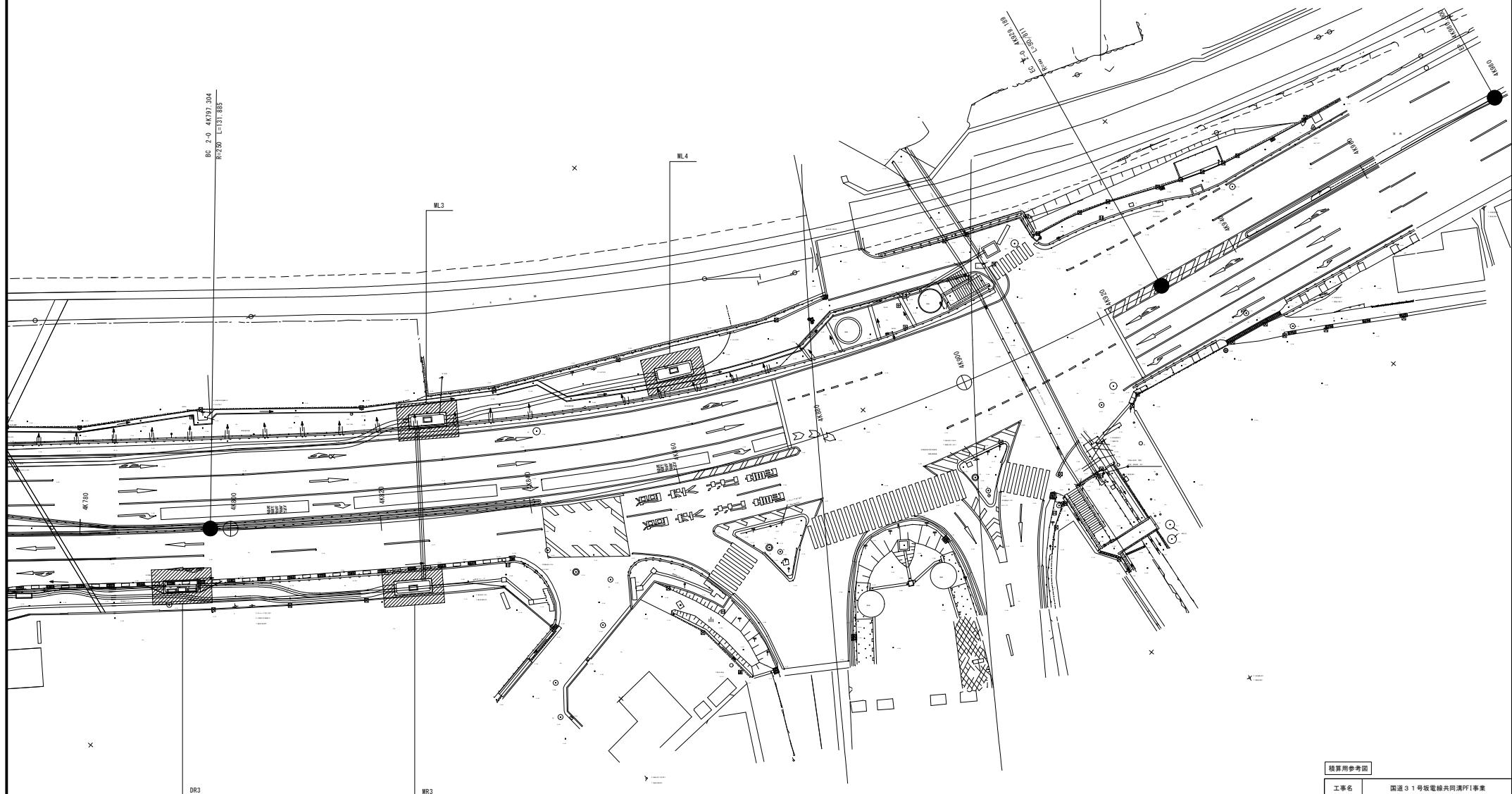
仮設平面図(3)

国道31号坂電線共同溝PFI事業 L=480m

1 2 3



BC 2.0 4K292.304
R=230 L=31.885



積算用参考図

工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業	
図面名	仮設平面図(3)	
作成年月日		
縮尺	1:250	図面番号 13 / 17
会社名		
事業者名	広島国道事務所	

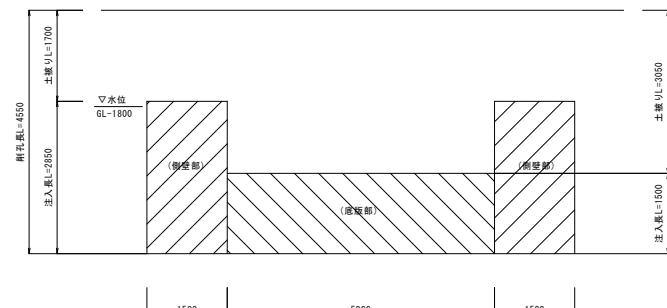
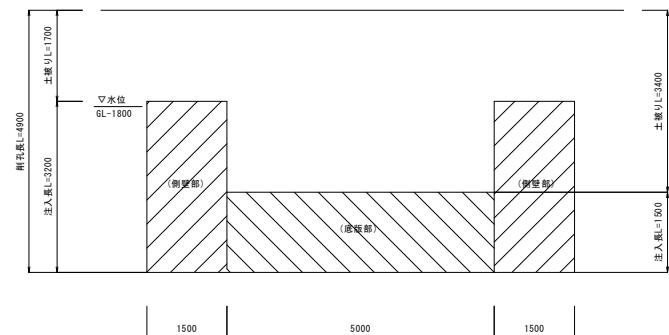
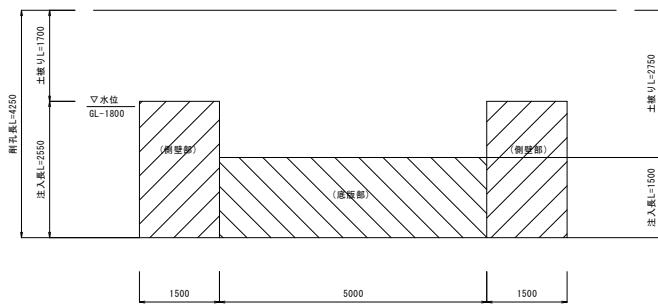
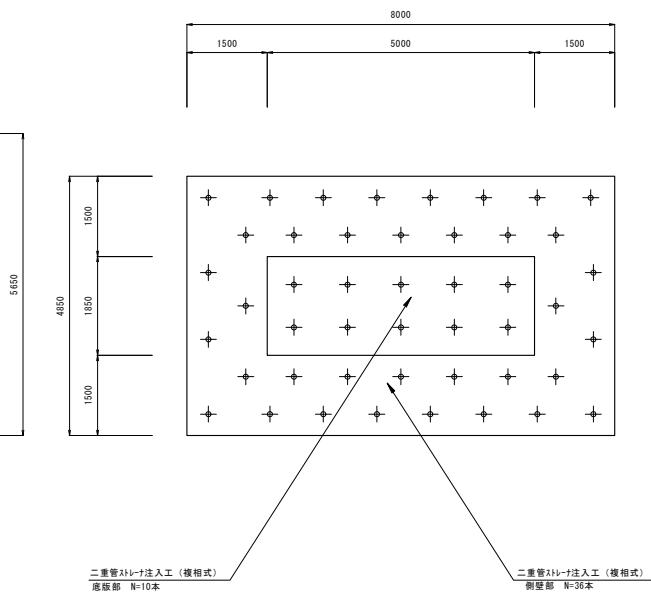
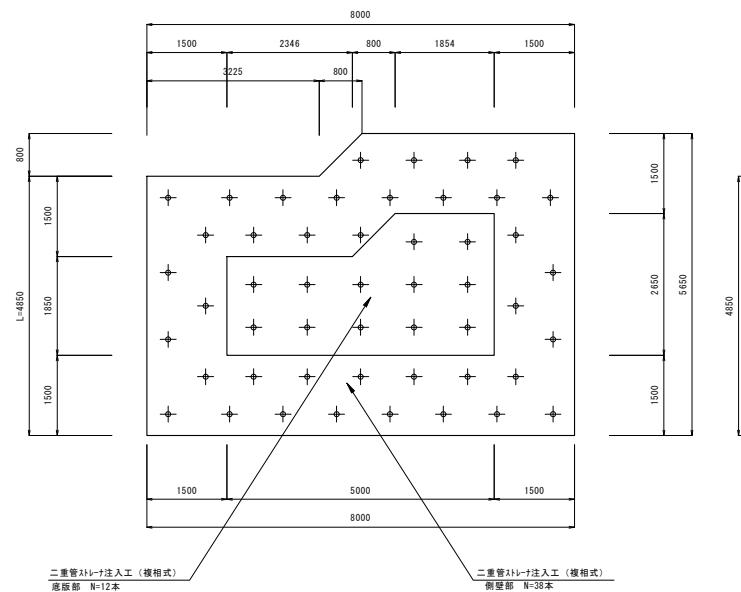
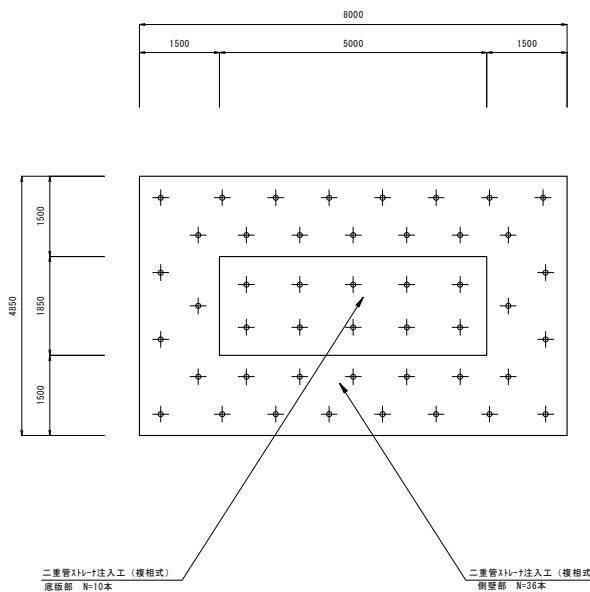
縮小率50%

薬液注入詳細図(1)

ML1～ML4, DR3, MR3

MR2

MR1



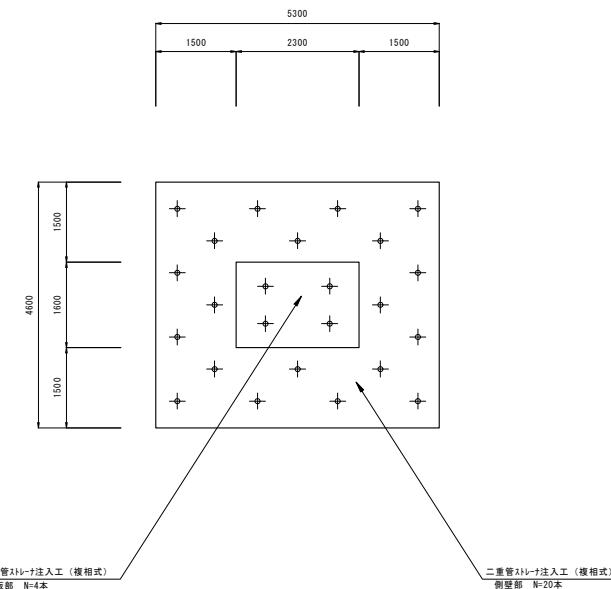
積算用参考図

工事名	国道3・1号坂電線共同溝PFI事業		
図面名	薬液注入詳細図(1)		
作成年月日			
縮尺	1 : 50	図面番号	14 / 17
会社名			
事業者名	広島国道路務所		

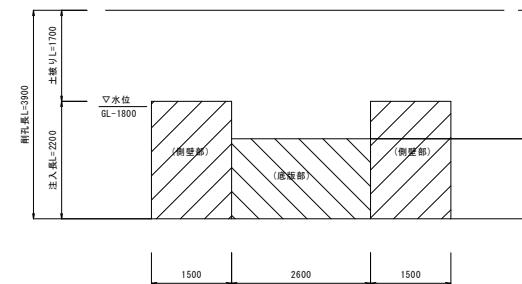
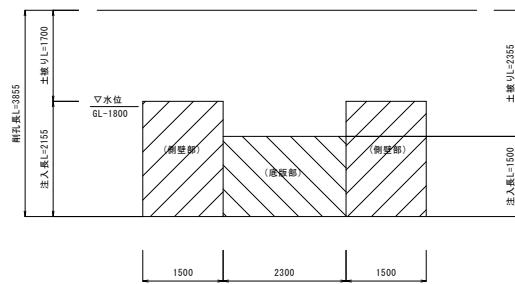
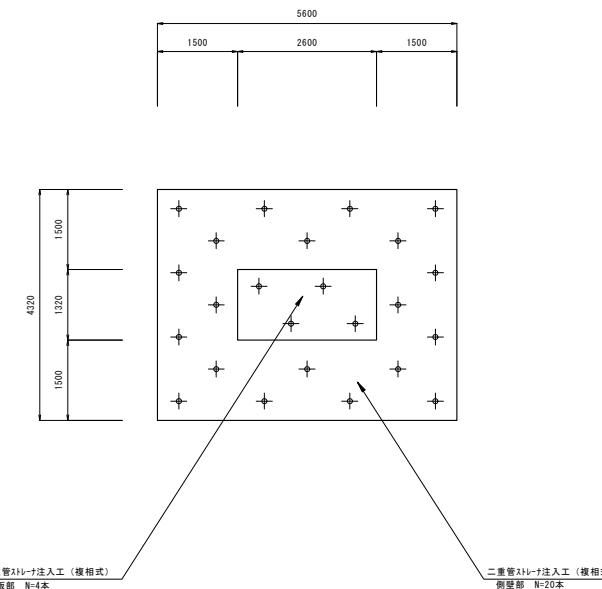
縮小50%

薬液注入詳細図(2)

DL1, DR1, DR2



TL1, TL3, TR2

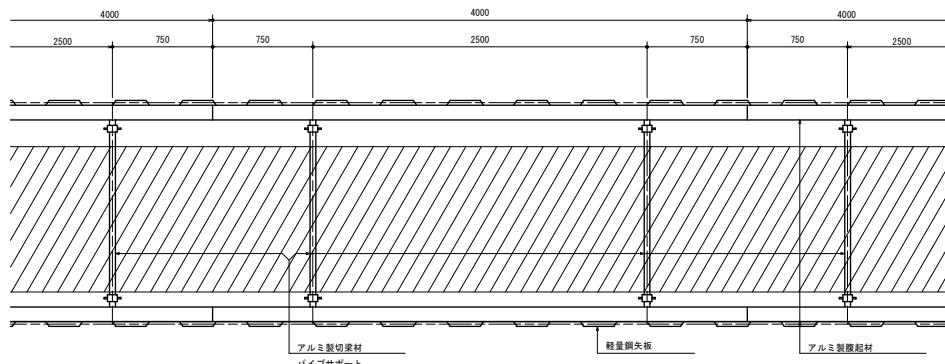


積算用参考図		
工事名	国道3・1号坂電線共同清PFI事業	
図面名	薬液注入詳細図(2)	
作成年月日		
縮尺	1 : 50	図面番号 15 / 17
会社名		
事業者名	広島国道路務所	

仮設構造図(1)

軽量鋼矢板建込方式

平面図

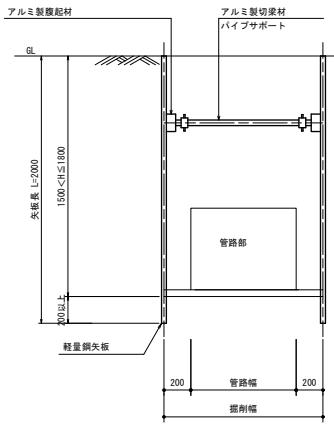


数量表

概 動	軽量鋼矢板	膜起し	切妻	備 考
(LSP1) 1500 < H ≤ 1800	軽量鋼矢板 (LSP-1型) L=2.0m 8.0m	825.6kg	アルミ製腹起材 (130x80x4000) 2本	36.0kg アルミ製切妻材 (水庄式) バイブサポート 2本
(LSP2) 1800 < H ≤ 2000	軽量鋼矢板 (LSP-1型) L=2.5m 8.0m	1030.4kg	アルミ製腹起材 (130x80x4000) 2本	36.0kg アルミ製切妻材 (水庄式) バイブサポート 2本
(LSP3) 2000 < H ≤ 2300	軽量鋼矢板 (LSP-1型) L=2.5m 8.0m	1030.4kg	アルミ製腹起材 (130x80x4000) 4本	72.0kg アルミ製切妻材 (水庄式) バイブサポート 4本
(LSP4) 2300 < H ≤ 2800	軽量鋼矢板 (LSP-1型) L=3.0m 8.0m	1354.4kg	アルミ製腹起材 (130x80x4000) 4本	72.0kg アルミ製切妻材 (水庄式) バイブサポート 4本

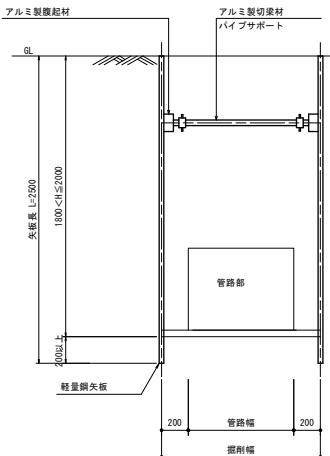
管路部 (LSP1)

1500 < H ≤ 1800



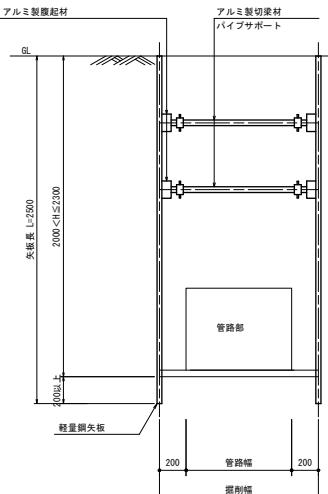
管路部 (LSP2)

1800 < H ≤ 2000



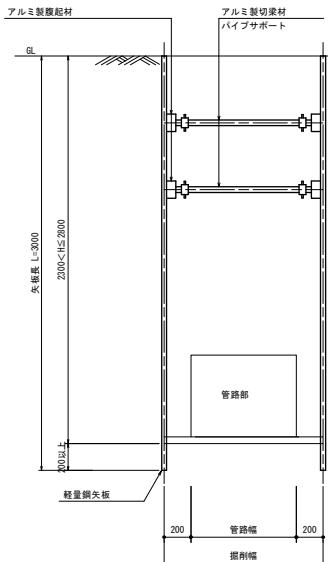
管路部 (LSP3)

2000 < H ≤ 2300



管路部 (LSP4)

2300 < H ≤ 2800



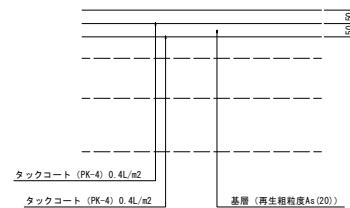
積算用参考図

工事名	国道3・1号坂電線共同清PFI事業	
図面名	仮設構造図(1)	
作成年月日		
縮 尺	1 : 20	図面番号 16 / 17
会社名		
事業社名	広島国道路務所	

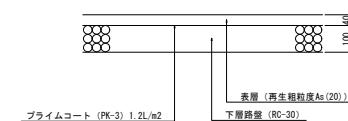
縮小率50%

仮設構造図(2)

仮舗装(A)



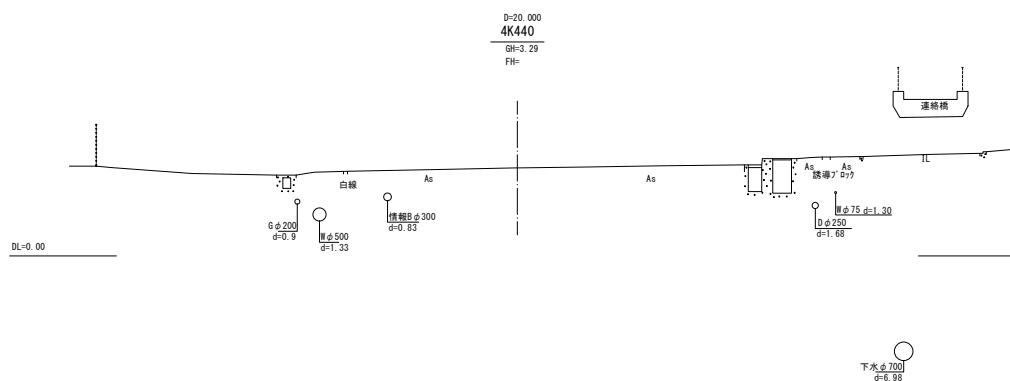
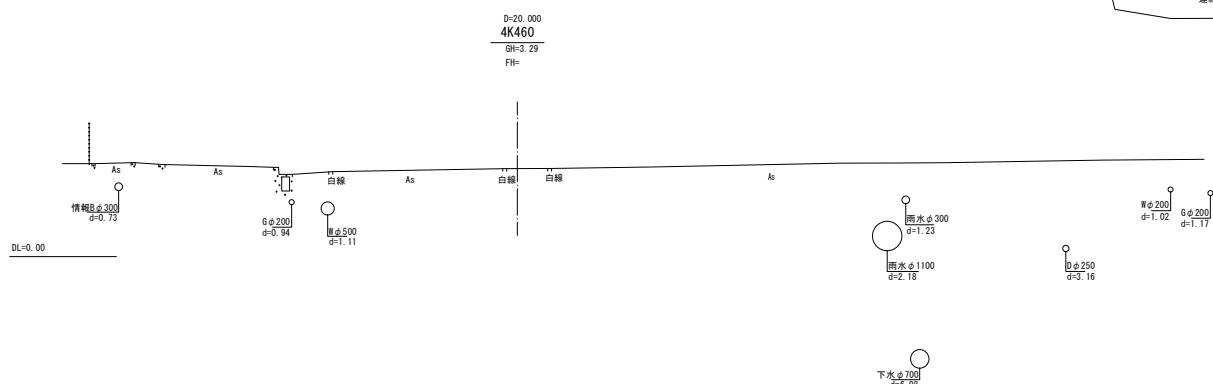
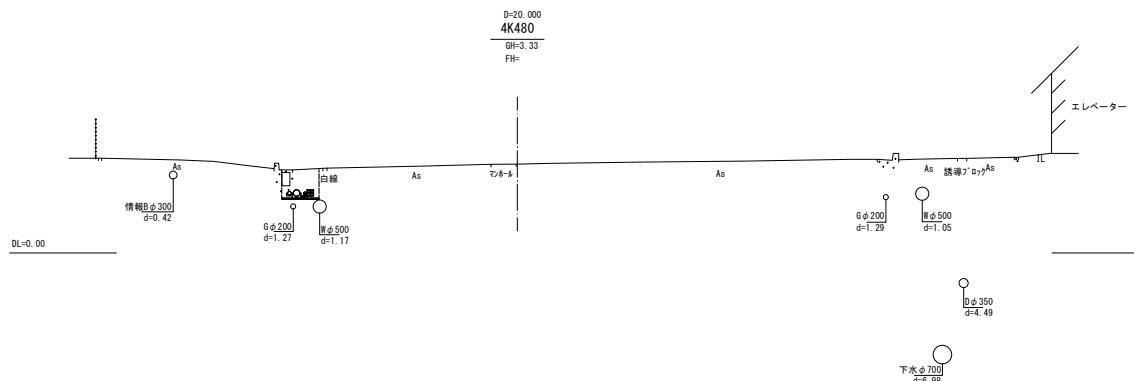
仮舗装(B)



概算用参考図

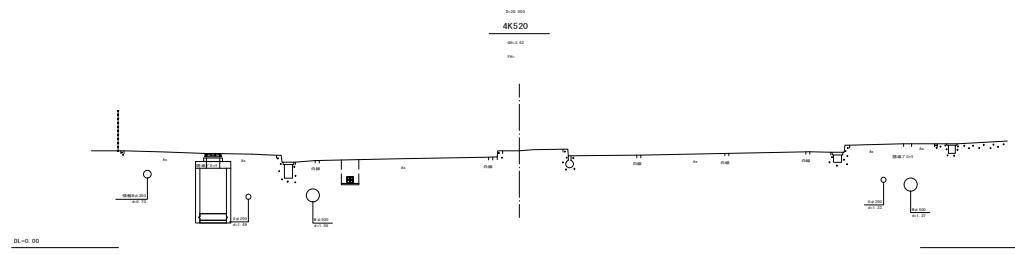
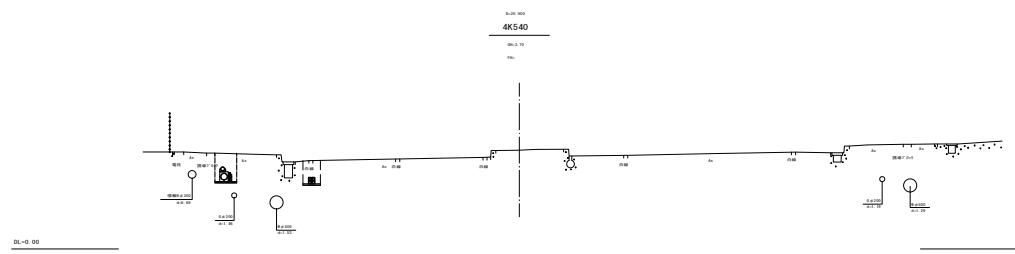
工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業		
図面名	仮設構造図(2)		
作成年月日			
縮尺	1:20	図面番号	17 / 17
会社名			
事業者名	広島国道事務所		

横断面図(1)



参考図			
工事名	国道3号坂電線共同溝PF1事業		
図面名	横断面図(1)		
作成年月日			
縮 尺	1 : 100	図面番号	1 / 10
会社名			
事業者名	広島国道路事務所		

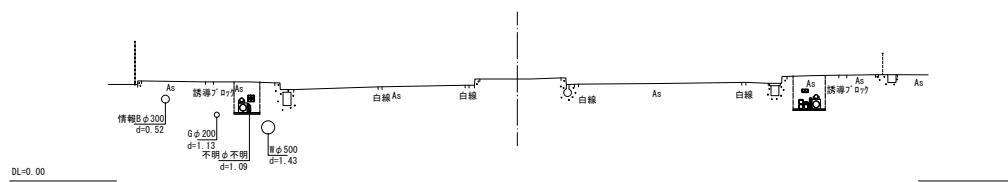
横断面図(2)



参考図			
工事名	国道31号坂東線共同清PF事業		
図面名	横断面図(2)		
作成年月日			
縮 尺	1 : 100	図面番号	2 / 10
会社名			
事業者名	広島国道路務所		

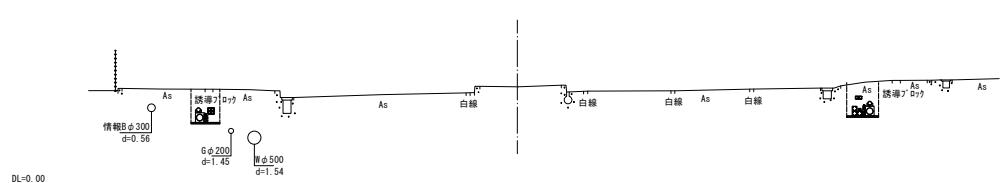
横断面図(3)

D=20,000
4K600
GH=3.82
FH=



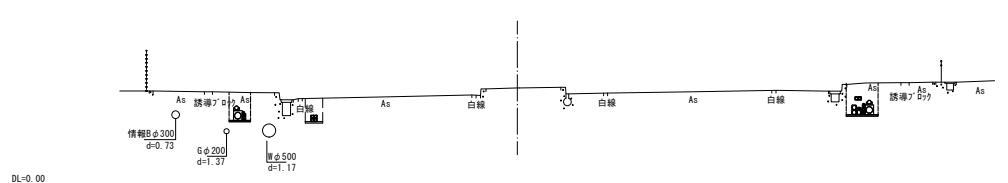
下水 d=700
d=6.81

D=20,000
4K580
GH=3.77
FH=



下水 d=700
d=6.84

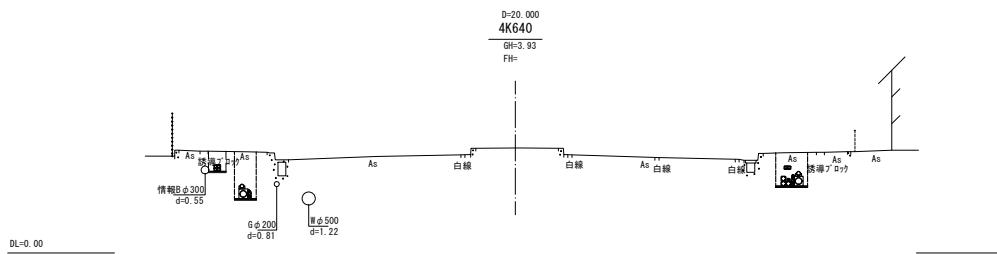
D=20,000
4K560
GH=3.75
FH=



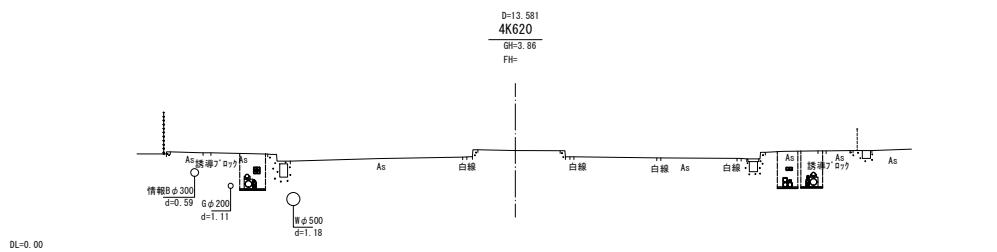
下水 d=700
d=6.84

参考図		
工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業	
図面名	横断面図(3)	
作成年月日		
縮尺	1 : 100	図面番号 3 / 10
会社名		
事業者名	広島国道路務所	

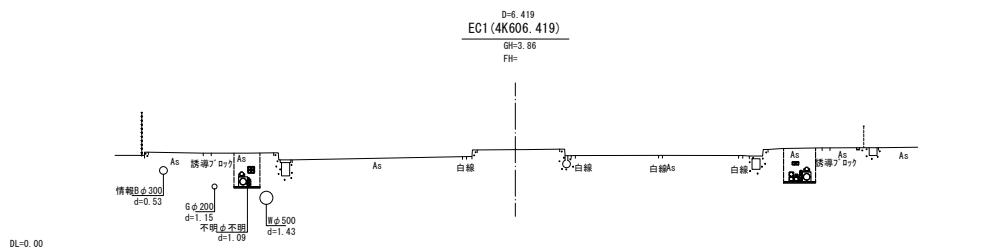
横断面図(4)



下水φ700
d=5.87



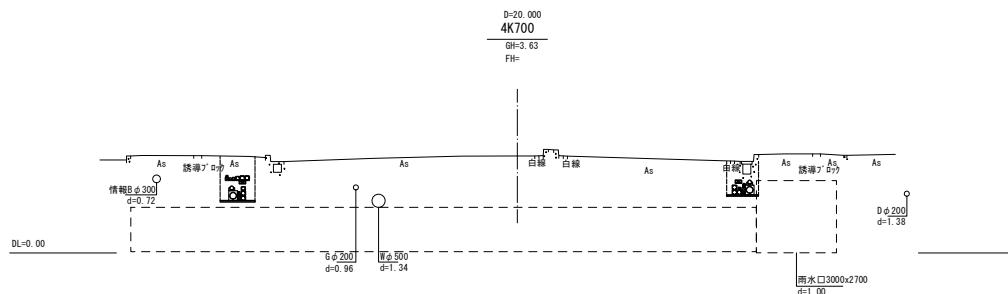
下水φ700
d=6.84



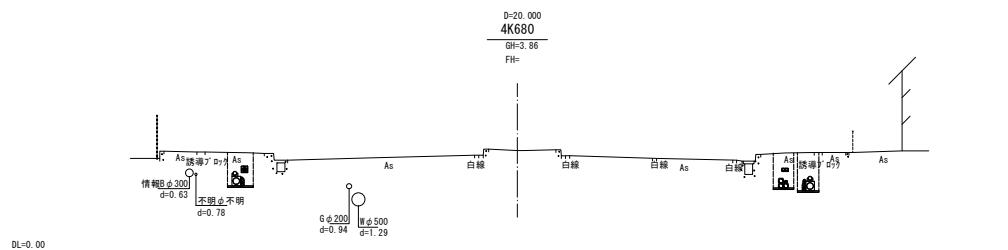
下水φ700
d=6.84

参考図	
工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業
図面名	横断面図(4)
作成年月日	
縮尺	1 : 100
会社名	
事業者名	広島国道路務所

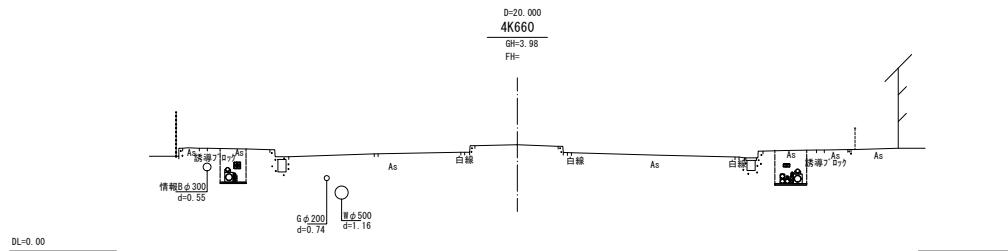
横断面図(5)



下水φ700
d=6.84



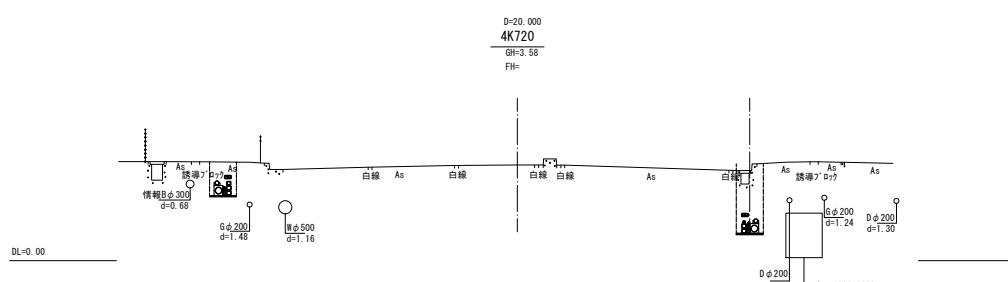
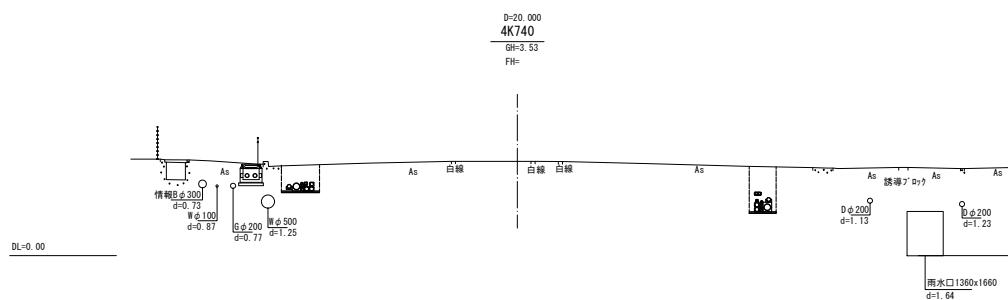
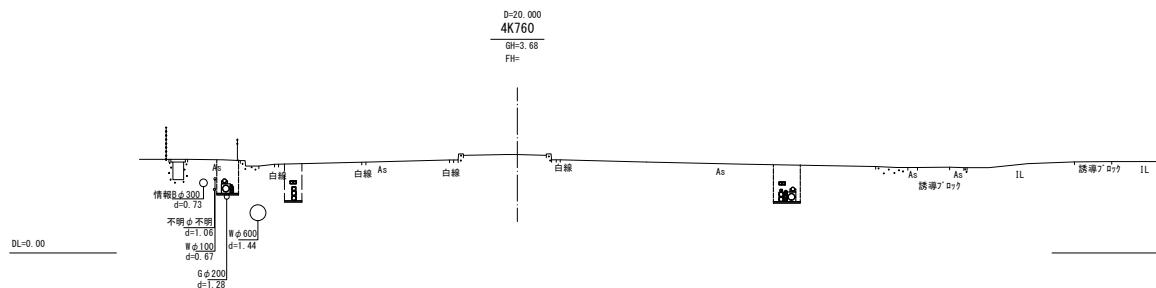
下水φ700
d=6.84



下水φ700
d=6.84

参考図		
工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業	
図面名	横断面図(5)	
作成年月日		
縮尺	1 : 100	図面番号 5 / 10
会社名		
事業者名	広島国道路務所	

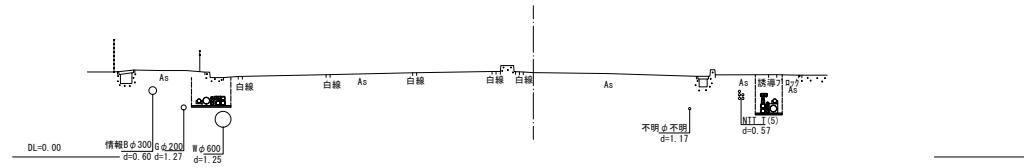
横断面図(6)



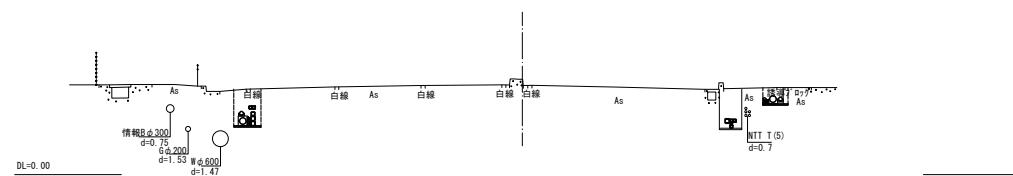
参考図			
工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業		
図面名	横断面図(6)		
作成年月日			
縮尺	1 : 100	図面番号	6 / 10
会社名			
事業者名	広島国道路務所		

横断面図(7)

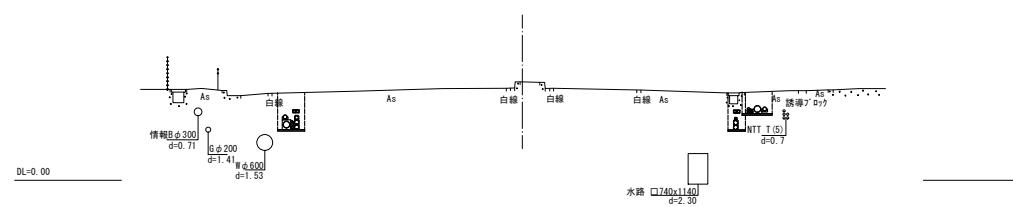
D=22.696
4K820
FH=3.16
FH=



D=17.304
BC2(4K797, 304)
FH=3.57
FH=



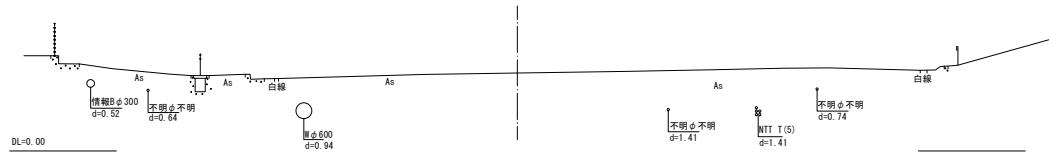
D=20.000
4K780
FH=3.68
FH=



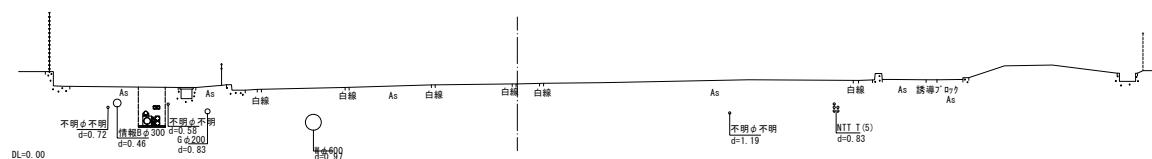
参考図	
工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業
図面名	横断面図(7)
作成年月日	
縮尺	1 : 100
会社名	
事業者名	広島国道路務所

横断面図(8)

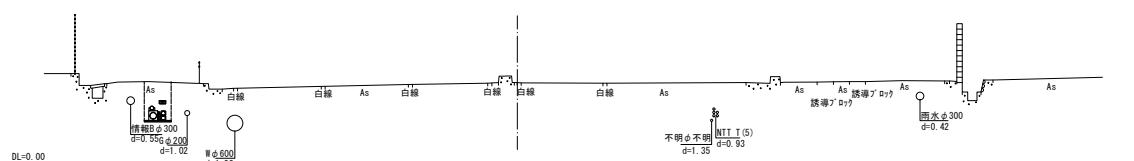
D=20.000
4K880
GH=2.92
FH=



D=20.000
4K860
GH=2.98
FH=



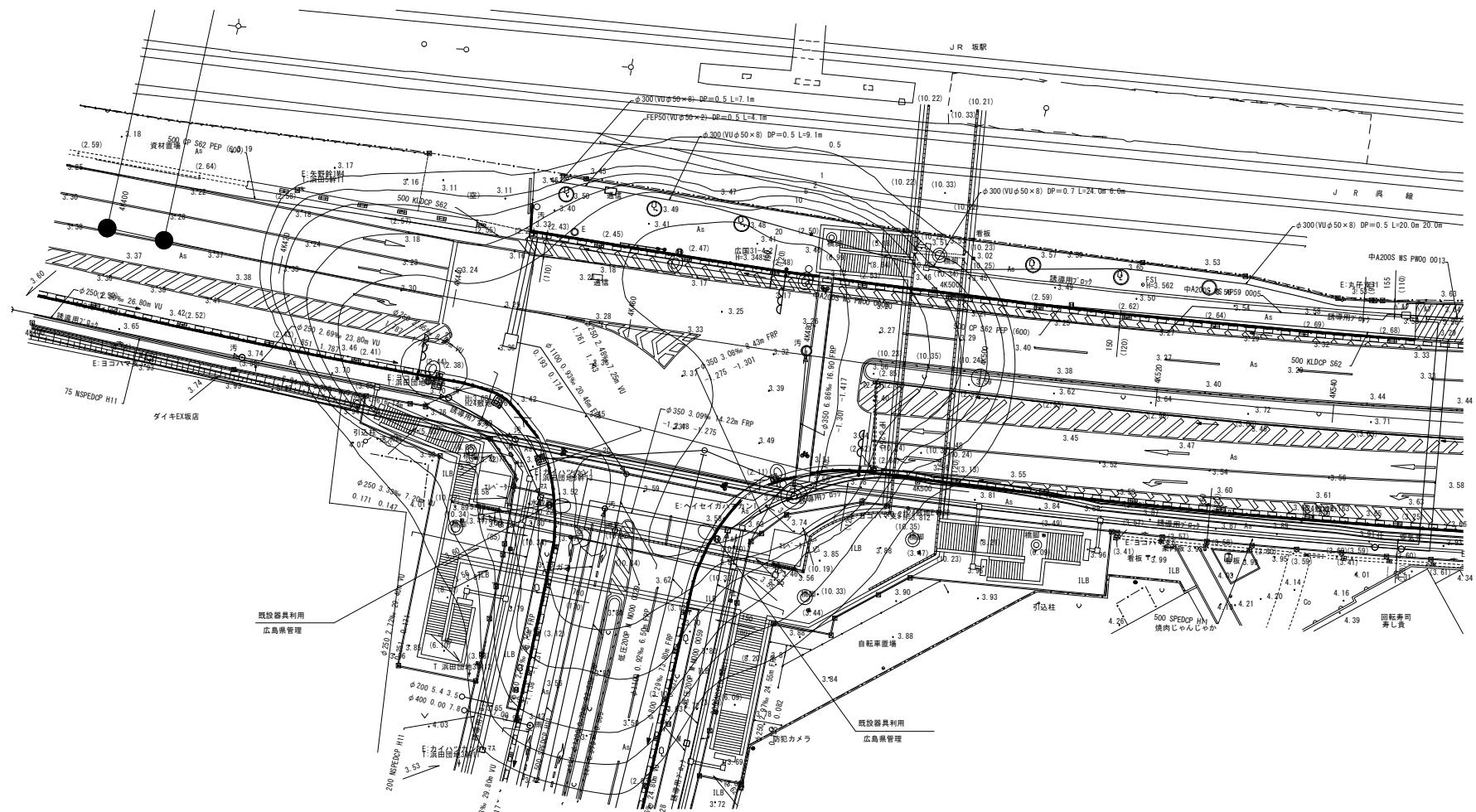
D=20.000
4K840
GH=3.09
FH=



参考図	
工事名	国道31号坂電線共同溝PFI事業
図面名	横断面図(8)
作成年月日	
縮尺	1 : 100
会社名	
事業者名	広島国道路務所

照 度 分 布 図 (1)

(坂駅北口交差点)



凡

照明器具形式	既設照明器具	E7728SAJ9/KE09C クランプ角度:10°
アセサリ	-	-
光 源	昼白色LED	昼白色LED
光 束 (lm)	8,300	11,600
保 守 率	0.7	0.7
灯 高 (m)	10.0	10.0
アーム角度	-	-
数量 (台)	(ボールト・タップ取付)	(ボルト・トップ取付)

照度及び計算範囲

	交差点I	基準値
平均照度 (lx)	20.5	20.0 OK
均齊度 (最小 / 平均)	0.40	0.40 OK

共

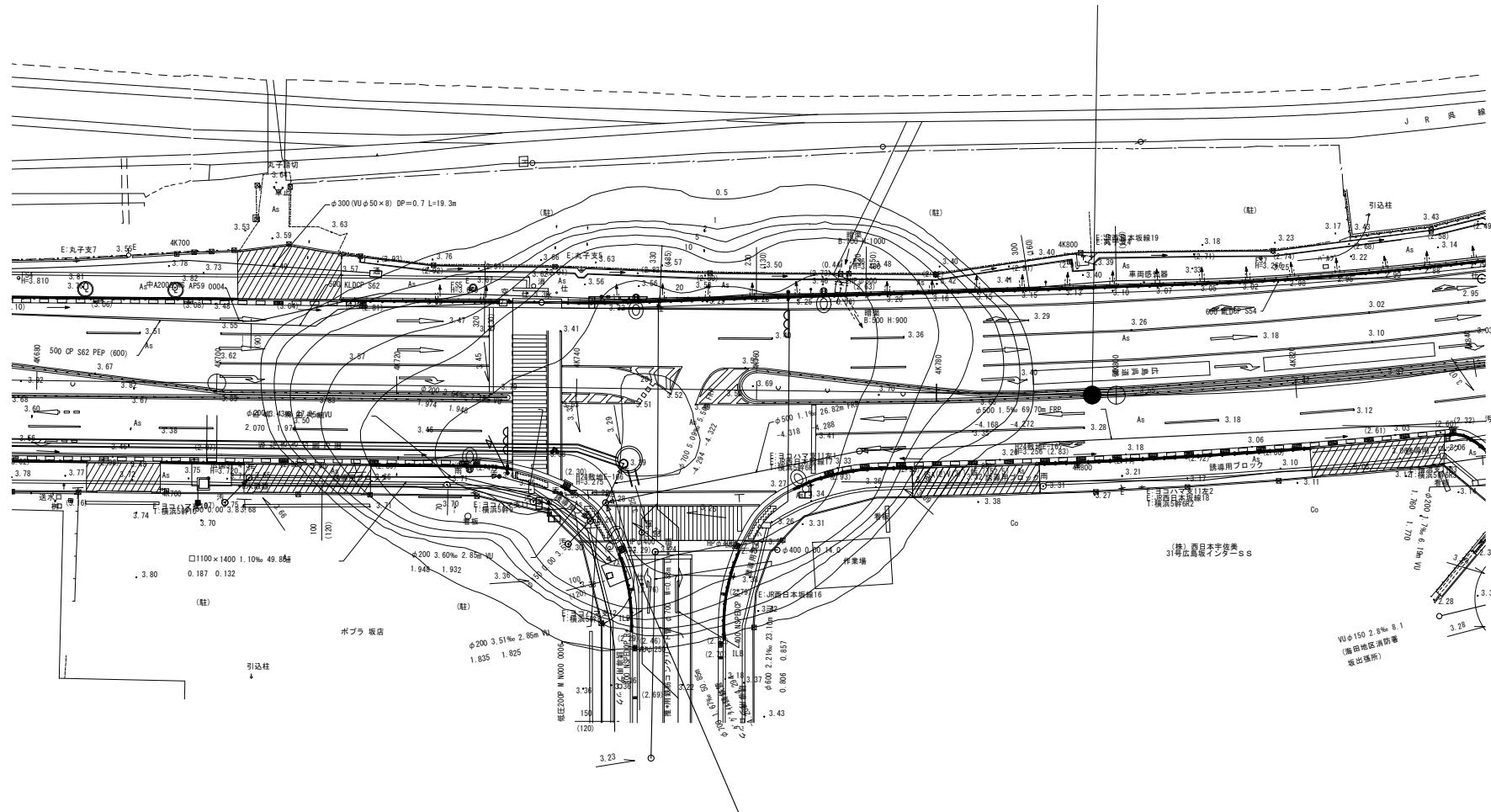
- 曲線上の数値は、維持水平面照度を示す。 単位:(lx)
 - 計算は平面とし、障害物等の影響は考慮しないものとする。

1

工事名	国道31号板電線共同溝PF工事業		
図面名	照度分布図(1)		
作成年月日			
縮 尺	1:250	図面番号	9 / 10
会社名			
事業社名	広島国道路務所		

照 度 分 布 図 (2)

(坂インター北交差点)



凡 例	
照明器具形式	E77283SAJ9 / KE09C クランプ角度: 10°
アクセサリ	-
光 源	昼白色LED
光 束 (lm)	11,600
保 守 率	0.7
灯 高 (m)	10.0
アーム角度	-
(ボールトップ取付)	
数 量 (台)	5

照度及び計算範囲	
	交差点2
平均照度 (lx)	22.2
均一度 (最小/平均)	0.43

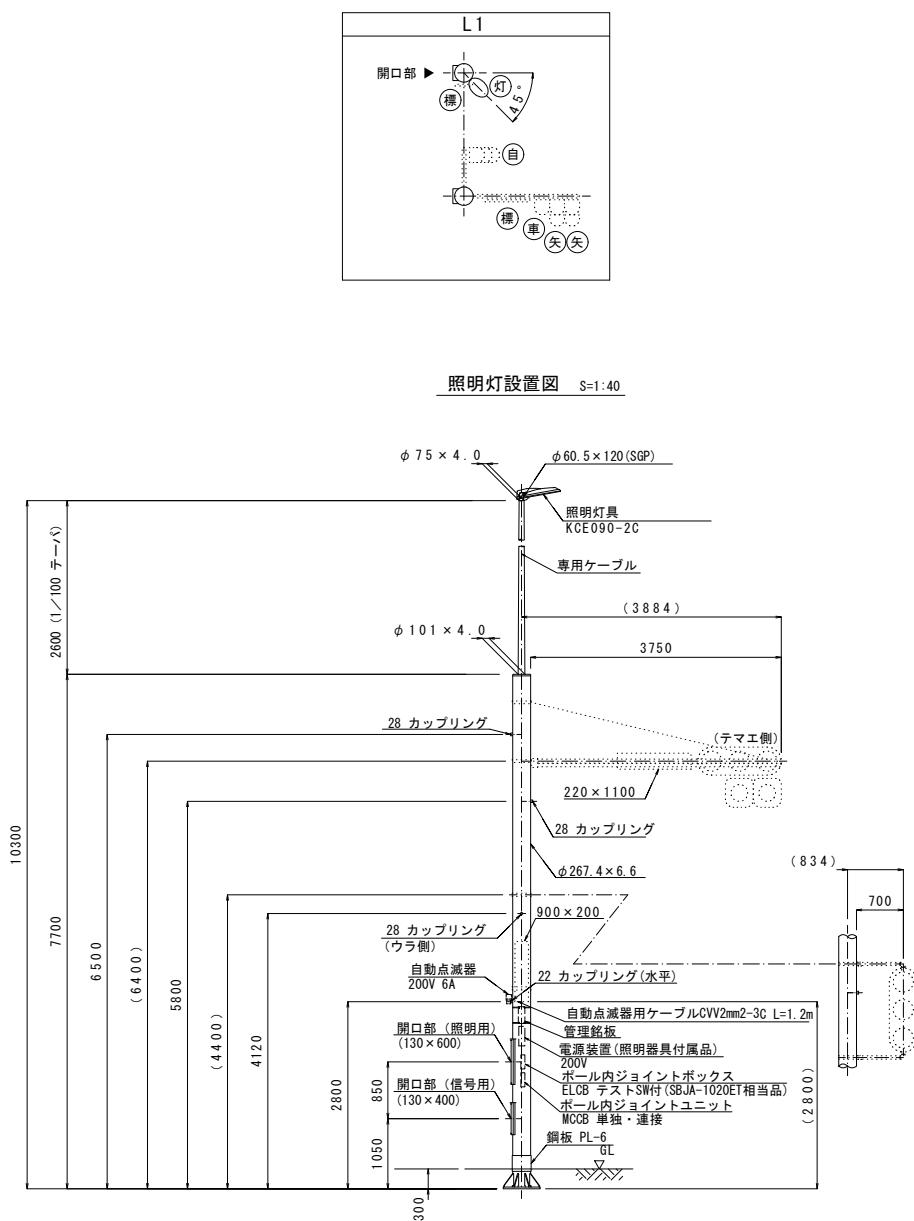
(注)

2. 粒度は平面上に一様な物質の影響を考慮しないものとする。

参考図	
工事名	国道31号坂電線共同溝PF1事業
図面名	照度分布図(2)
作成年月日	
縮 尺	1:250
会社名	
事業社名	広島国道路務所

多目的柱姿図 (1)

(L1)



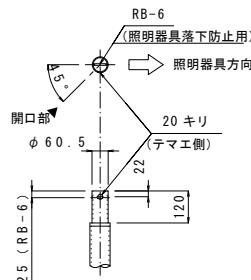
注記

- 寸法、姿図は参考とする。
- 照明柱基礎、接地、埋設管路は土木工事とし、標識、交通信号設備(取付アーム等含む)は別途工事とする。
- 照明柱の材質、仕上げは下記のとおりとし、参考重量は、497kgとする。
 - 材質: SS400, STK400、又は相当品
 - 仕上: 溶融亜鉛めっき (JIS H 8641 HDZT 77) 後塗装とし、塗装仕様は下記のとおりとする。

塗装仕様

照明柱関係
【溶融亜鉛めっき後仕上げ塗装】
塗装仕様(上塗): ウレタン樹脂塗装
指定色塗装(下塗): 溶融亜鉛めっき用 エポキシシリコン系樹脂塗装
指定色塗装: ダークブラウン(こげ茶色) 10YR2.0/1.0半艶

照明器具取付部詳細図 S=1:10



照明柱管理銘板姿図 S=1:2



銘板仕様

材質 0.3 mm SUS304
印字 黒色エナメル墨入
字体 丸ゴシック
防錆処理 透明メラミン樹脂塗料の吹付処理
刻印 文字の内容 大きさは監督員の指示による
取付 ステンレスバンド

注記

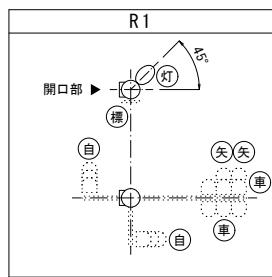
- 寸法、姿図は参考とする。

(道路照明設備)

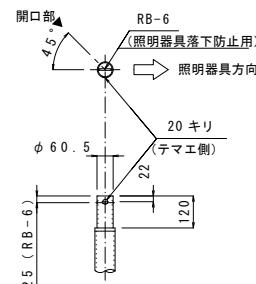
工事名	国道 31号阪電共同溝 PFI事業		
図面名	多目的柱姿図 (1)		
作成年月日	令和7年度		
縮尺	図示	図面番号	5 / 10
会社名	中国地方整備局 広島国道路事務所		
事業者名			

多目的柱姿図 (2)

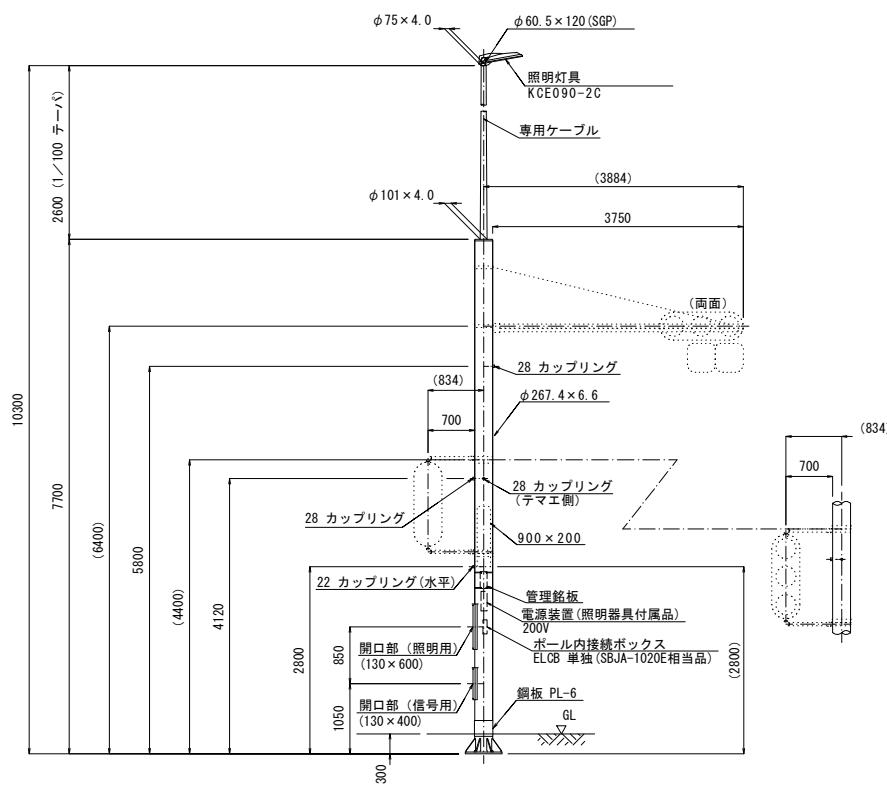
(R1)



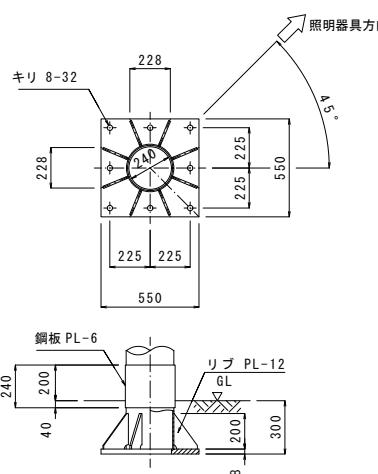
照明器具取付部詳細図 S=1:10



照明灯設置図 S=1:40



ベースプレート詳細図 S=1:15



注記

- 寸法、姿図は参考とする。
- 照明柱基礎、接地、埋設管路は土木工事とし、標識、交通信号設備(取付アーム等含む)は別途工事とする。
- 照明柱の材質、仕上げは下記のとおりとし、参考重量は、497kgとする。
 - 材質: SS400, STK400、又は相当品
 - 仕上: 溶融垂鉛めっき (JIS H 8641 HDZT 77) 後塗装とし、塗装仕様は下記のとおりとする。

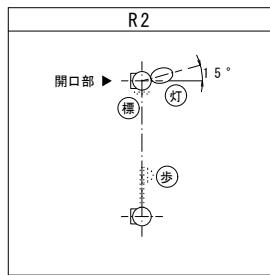
塗装仕様

照明柱関係
【溶融垂鉛めっき後仕上げ塗装】
塗装仕様(上塗): ウレタン樹脂塗装
指定色塗装(下塗): 溶融垂鉛めっき用 エポキシシリコン系樹脂塗装
指定色塗装: ダークブラウン(こげ茶色) 10YR2.0/1.0半艶

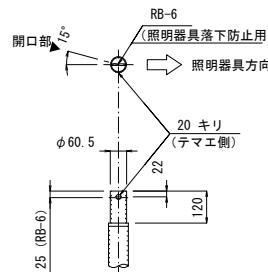
工事名	国道31号阪電線共同溝PF工事業		
図面名	多目的柱姿図 (2)		
作成年月日	令和7年度		
縮尺	図示	図面番号	6 / 10
会社名			
事業者名	中国地方整備局 広島国道事務所		

多目的柱姿図 (3)

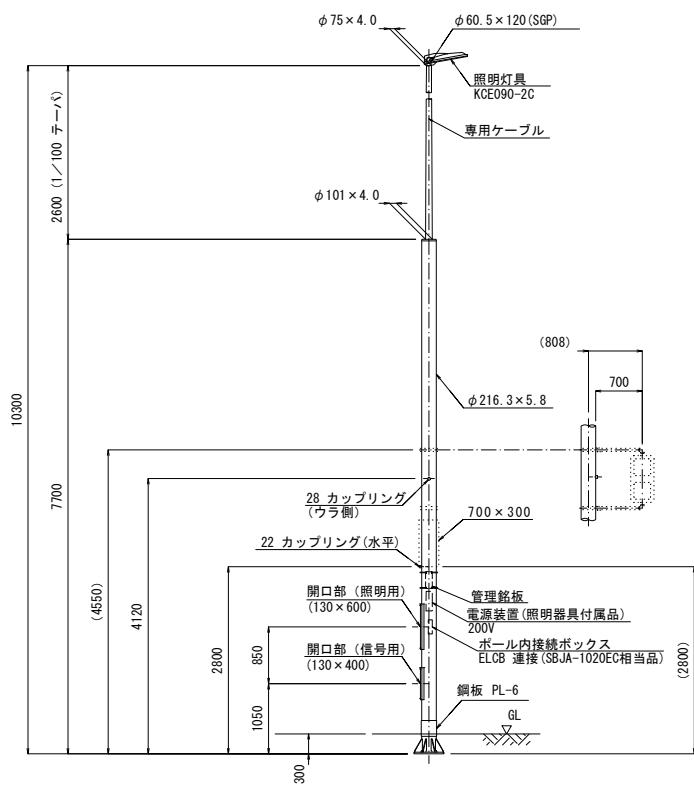
(R2)



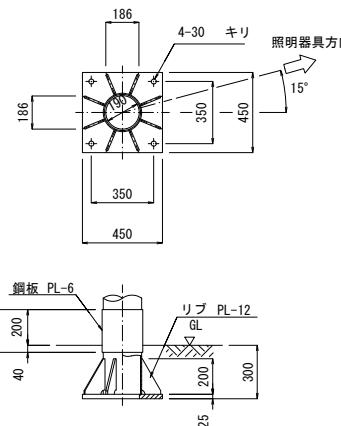
照明器具取付部詳細図 S=1:10



照明灯設置図 S=1:40



ベースプレート詳細図 S=1:15



注記

- 寸法、姿図は参考とする。
- 照明柱基礎、接地、埋設管路は土木工事とし、標識、交通信号設備(取付アーム等含む)は別途工事とする。
- 照明柱の材質、仕上げは下記のとおりとし、参考重量は、364kgとする。
 - ・材質：SS400、STK400、又は相当品
 - ・仕上：溶融亜鉛めっき (JIS H 8641 HDZT 77) 後塗装とし、塗装仕様は下記のとおりとする。

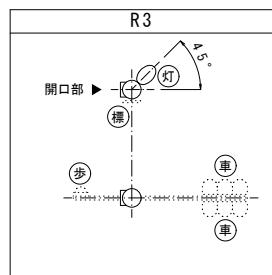
塗装仕様

照明柱関係
【溶融亜鉛めっき後仕上げ塗装】
塗装仕様(上塗)：ウレタン樹脂塗装
指定色塗装(下塗)：溶融亜鉛めっき用 エポキシシリコン系樹脂塗装
指定色塗装：ダークブラウン(こげ茶色) 10YR2.0/1.0半艶

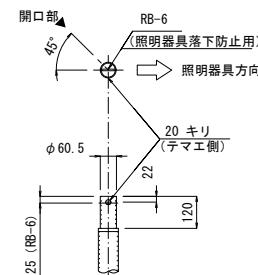
工事名	国道31号阪電線共同溝PF事業		
図面名	多目的柱姿図 (3)		
作成年月日	令和7年度		
縮尺	図示	図面番号	7 / 10
会社名			
事業者名	中国地方整備局 広島国道事務所		

多目的柱姿図 (4)

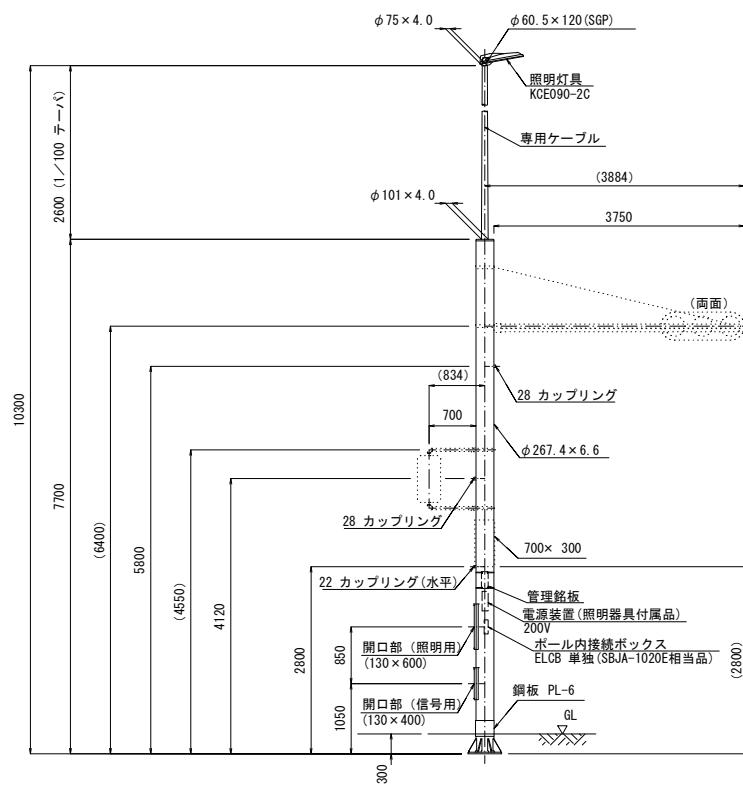
(R3)



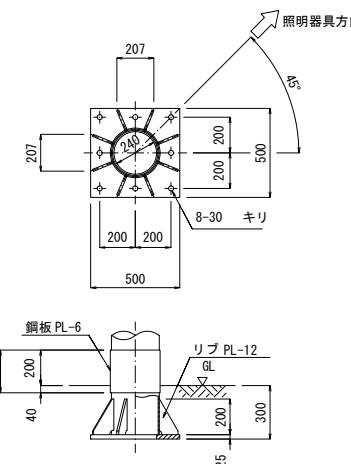
照明器具取付部詳細図 S=1:10



照明灯設置図 S=1:40



ベースプレート詳細図 S=1:15



注記

- 寸法、姿図は参考とする。
- 照明柱基礎、接地、埋設管路は土木工事とし、標識、交通信号設備(取付アーム等含む)は別途工事とする。
- 照明柱の材質、仕上げは下記のとおりとし、参考重量は、476kgとする。
 - ・材質：SS400、STK400、又は相当品
 - ・仕上：溶融亜鉛めっき (JIS H 8641 HDZT 77) 後塗装とし、塗装仕様は下記のとおりとする。

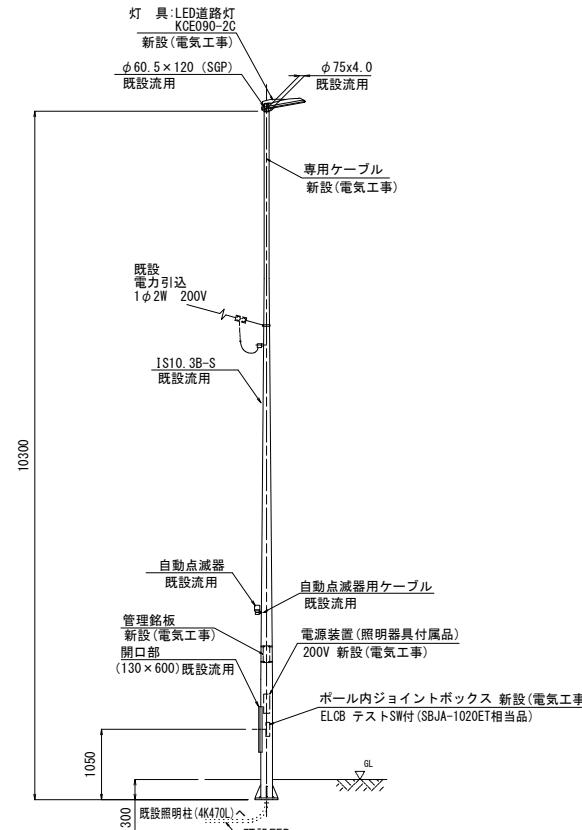
塗装仕様

照明柱関係
【溶融亜鉛めっき後仕上げ塗装】
塗装仕様(上塗)：ウレタン樹脂塗装
指定色塗装(下塗)：溶融亜鉛めっき用 エポキシシリコン系樹脂塗装
指定色塗装：ダークブラウン(こげ茶色) 10YR2.0/1.0半艶

工事名	国道31号板電線共同溝PF事業		
図面名	多目的柱姿図(4)		
作成年月日	令和7年度		
縮尺	図示	図面番号	8 / 10
会社名			
事業者名	中国地方整備局 広島国道事務所		

照明柱姿図 (1)

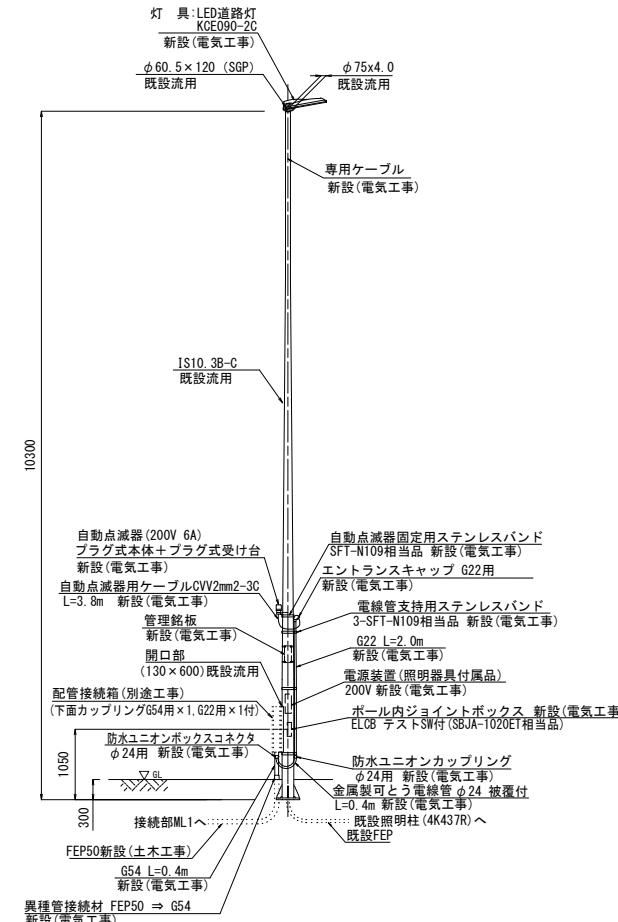
照明灯設置図 S=1:40
(4K437R)



注記

1. 寸法、姿図は参考とする。
2. 照明柱、自動点滅器、照明柱基礎、接地は、既設流用とする。

照明灯設置図 S=1:40
(4K470L)

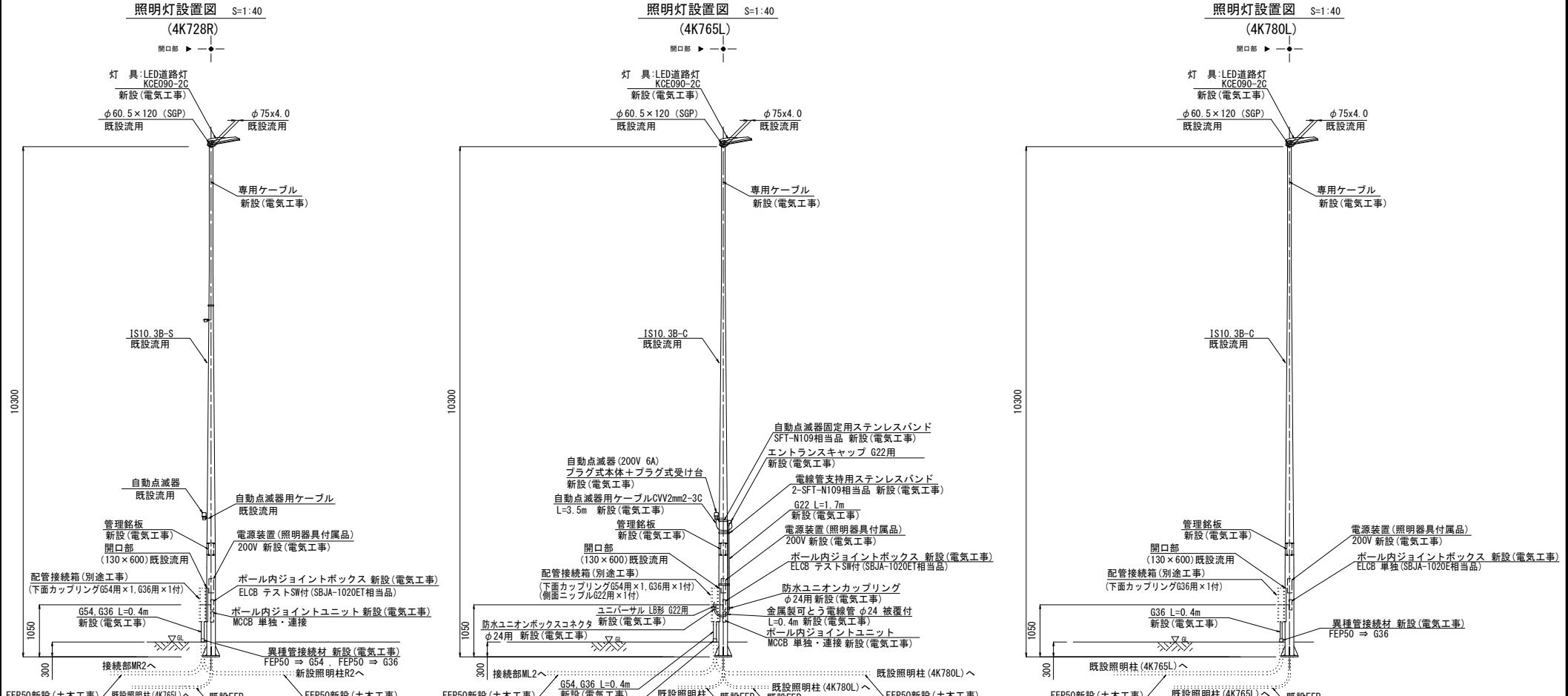


注記

1. 寸法、姿図は参考とする。
2. 照明柱、照明柱基礎、接地は、既設流用とする。

工事名	国道31号坂電線共同溝PF1事業		
図面名	照明柱姿図 (1)		
作成年月日	令和7年度		
縮尺	図示	図面番号	9 / 10
会社名			
事業者名	中国地方整備局 広島国道路事務所		

照明柱姿図 (2)



注記

注記

注記

(道路照明設備)

工事名	国道31号阪神電線共同溝PF1事業		
図面名	照明柱姿図(2)		
作成年月日	令和7年度		
縮尺	図示	図面番号	10 / 10
会社名	中国地方整備局 広島国道路事務所		
事業者名	中国地方整備局 広島国道路事務所		